

平成 21 年度文部科学省委託事業
子ども読書応援プロジェクト

子ども読書活動推進に関する評価・分析事業 報告書

2010 年 3 月

財団法人 文字・活字文化推進機構

はじめに

子どもの読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。

このため、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、社会全体で積極的にそのための環境の整備を推進していくことは極めて重要です。

本事業は、子どもの読書活動を推進するための取組が、読書の力を最大限に発揮させるための活動である、という認識の下に事業を実施しました。

また、その取組が、学校や図書館、読書ボランティア団体などの人々によって支えられていることを考慮し、あらゆる立場の方々にアンケート調査、ヒヤリング調査等を実施し、意見を聴取し、現場の関係者の意見を調査に反映させるとともに、現場の工夫や経験といった質的な情報を把握することに努めました。

本報告書は、事業の目的である文部科学省の委託事業受託自治体における子どもの読書活動の推進に関する実態を調査し、収集した情報に基づいて読書活動の推進状況等を把握し、評価・分析した各種調査結果をとりまとめました。

なお、本事業の実施にあたり、アンケート調査をはじめ各種調査に御協力いただいた一般の方々、自治体関係者および学校関係者の皆様、読書関係団体および本事業の評価委員の各位に厚く感謝申し上げます。

本報告書が、子どもの読書活動を推進する取組のさらなる発展に寄与することができれば幸いです。

財団法人 文字・活字文化推進機構

目 次

事業の実施フレームと具体的な把握事項.....	2
第1章 子どもの読書活動を推進するための取組を実施している自治体について.....	5
1. 文部科学省委託事業の受託自治体における活動状況.....	6
(1) 調査の概要.....	6
(2) 調査結果の概要.....	7
(3) 取組参加者に対する調査の対象自治体の選出.....	9
2. 文部科学省委託事業の受託自治体における「子どもの読書活動推進計画」の状況.....	10
(1) 収集・整理の目的と方針.....	10
(2) 整理の結果.....	11
3. 文部科学省委託事業の受託自治体における取組参加者に対する調査.....	14
3-1. アンケート調査の概要および結果.....	14
(1) 調査の概要.....	14
(2) 調査結果の概要.....	16
1) 地域の読書環境に関する評価(子ども、学校の先生、保護者).....	16
① 家庭における読み聞かせの有無.....	16
② 読書ボランティアの取組に対する評価.....	17
③ 地域の図書館の取組に対する評価.....	18
④ 自治体の取組に対する評価.....	19
2) 子どもの読書活動を推進するための取組の実態に関する評価(子ども、学校の先生、保護者).....	20
① 調べ学習などによる読書活動.....	21
② 朝の読書や読書の時間などの全校一斉読書.....	22
③ 読書ボランティアなどによる読み聞かせやブックトーク.....	23
3) 取組に参加したことによる効果(子ども、学校の先生、保護者).....	24
① 本を読むようになったか.....	24
② 興味・関心などの変容.....	24
③ 読書によって培われるとされる能力の変容.....	26
3-2. ヒヤリング調査の概要および結果.....	28
(1) 調査の概要.....	28
(2) 調査結果の概要.....	29
1) 京都府南丹市.....	29
2) 茨城県大子町.....	33

第2章 子どもの読書活動に関する情報発信について.....	39
1. 「子ども読書の情報館」に関する評価.....	40
(1) 調査の概要.....	40
(2) 調査結果の概要.....	41
1) 「子ども読書の情報館」の認知経路と閲覧理由.....	41
① 認知経路.....	41
② 閲覧理由.....	42
2) 「子ども読書の情報館」の掲載情報.....	43
① 閲覧したページの役立ち度.....	43
② 掲載情報の役立ち度.....	44
③ 入手したい情報.....	45
2. 子どもの読書活動に関する情報の入手状況.....	46
(1) 子どもの本に関する情報の入手先.....	46
(2) 文部科学省の施策の認知と評価.....	48
① 認知状況.....	48
② 評価.....	49
第3章 読書ボランティアについて.....	51
1. 調査の概要.....	52
1-1. 読書ボランティア実態調査.....	52
1-2. 読書ボランティア団体からのヒヤリング調査.....	52
2. 調査の結果.....	53
(1) 読書ボランティアをめぐる社会状況.....	53
(2) 読書ボランティアのプロフィール.....	53
(3) 読書ボランティアとなった理由・契機.....	55
(4) 読書ボランティア活動の状況.....	56
(5) 読書ボランティア活動の問題・課題.....	59
(6) 読書ボランティア活動の成果.....	61
第1章 調査結果に基づく評価・分析.....	65
1. 子どもの読書に対する態度の変容について.....	66
(1) 地域の読書環境と子どもの態度の変容の検証.....	67
① 家庭における読み聞かせの有無と態度の変容の関係.....	67
② 読書ボランティアの取組の評価と態度の変容の関係.....	70
③ 地域の図書館の評価と態度の変容の関係.....	73
④ 自治体の取組の評価と態度変容の関係.....	74
(2) 読書活動を推進するための取組と態度変容の検証.....	75
① 「調べ学習」の取組の評価と態度の変容の関係.....	75
② 「読書の時間」の取組に対する評価と態度の変容の関係.....	78
③ 「読み聞かせ」の取組に対する評価と態度変容の関係.....	81

2. 調査結果のまとめ.....	84
(1) 子どもの読書活動を推進するための取組状況とその効果.....	84
① 学校の取組.....	84
② 地域の取組.....	85
③ 自治体.....	87
④ 文部科学省の施策.....	87
⑤ 家庭の読書環境.....	88
(2) 問題・課題.....	88
① 学校の取組やボランティア活動を活かす体系的な指針の必要性について.....	88
② 読書ボランティアと受け入れ先や自治体との連携について.....	89
③ 家庭による読書に対する意識の差異に伴う対応の難しさについて.....	89
(3) 読書活動の推進に関する取組の情報提供について.....	90
① 文部科学省の取組の認知度と本に関する情報の入手先の現状.....	90
② 問題・課題.....	90
第2章 今後の取組への提案.....	91

I . 業務概要

事業の実施フレームと具体的な把握事項

本事業では、子どもの読書活動を推進する様々な取組に関する各種調査を実施する上で、調査の実施フレームと各種調査における具体的な把握事項を以下のよう

I. 既存の統計データ・各種調査結果の文献資料の収集・整理

子どもの読書時間・読書量等や読書ボランティアの活動状況等に関する既存情報を収集し、本事業の基礎情報として整理した。

II. 読書ボランティアを対象とした調査

II-1. 読書ボランティア団体の責任者に対する実態の全体像を把握する調査(ヒヤリング)
読書ボランティアの活動状況について、定性データを収集し、活動実態を把握した。

II-2. 読書ボランティアに対する実態調査(ウェブ)

読書ボランティアの活動状況や増減要因、活動による効果や問題点・課題を定量的に把握した。

III. 平成20年度文部科学省委託事業の受託自治体に対する調査

III-1. 自治体担当者に対する調査

自治体における読書活動の取組の情報を収集し、その実態を把握した。

III-2. 自治体担当者に対する調査(ヒヤリング)

取組に関わった自治体担当者や学校関係者などを対象に情報を収集し、読書活動の推進に関する実態、状況等を把握した。

IV. 受託自治体による取組への参加者に対する調査(子ども、先生、保護者)

子ども、学校の先生、保護者を対象に、子どもの読書環境、取組の実態とその評価、取組による子どもの変容とその要因について把握した。

V. 子どもの読書活動を推進する情報発信に関する調査

V-1. 「子ども読書の情報館」における調査(ウェブ)

子どもの読書活動に関する情報を発信している「子ども読書の情報館」に対する子どもと大人の評価を把握した。

これらの調査結果に基づき、本報告書では、次の3つの柱で整理した。

- ・子どもの読書活動を推進するための取組を実施している自治体について
- ・子どもの読書活動に関する情報発信について
- ・読書ボランティアについて

さらに、調査結果に基づき、様々な施策がどのような効果をあげているのか、問題・課題は何か、その解決策や対応策は何かを把握するために評価・分析を行い、とりまとめた。

Ⅱ. 調査実施内容

Ⅱ. 調査実施内容

第1章 子どもの読書活動を推進するための 取組を実施している自治体について

1. 文部科学省委託事業の受託自治体における活動状況

(1) 調査の概要

子どもの読書活動を推進するための取組を実施している自治体の活動状況を把握することを目的に、平成20年度に文部科学省の委託事業を受託した自治体を対象にアンケート調査を実施した。

【アンケート質問構成】

委託事業について	1. 文部科学省の委託事業について
委託事業以外の読書活動の取組について	2. 「子どもの読書活動を推進するための取組」の内容・進め方・体制等について
	3. 図書館を拠点とした取組について
	4. 学校を拠点とした取組について
	5. 小学校における実施状況について
	6. 中学校における実施状況について
	7. 図書館や学校以外（公民館など）の取組について
	8. 子どもの読書活動を推進するための取組の成果について
	9. 子どもの読書活動を推進するための取組を成功させるポイントと課題について
	10. 実施主体について

【実施期間】

平成21年8月17日～8月31日

【回答自治体数】

46自治体

(2) 調査結果の概要

本調査では、「文部科学省の委託事業による効果」と「委託事業以外の読書活動の取組による効果」について整理した。

1. 「読む・調べる」習慣の確立に向けた実践研究事業

■ 調べ学習の効果

- ・ 学校において調べ学習の取組が活発化した。学校図書館の学習情報センターとしての機能が高まった。
- ・ 調べ学習のための資料が整備されたことにより、学校図書館の活用を図ることができた。
- ・ 読み聞かせ活動が活発化したことにより、学校図書館の貸出冊数が増加した。
- ・ 図書館の環境が整備されたことにより、子どもの読書意欲が向上し、読書量が増加するとともに、様々な場面で図書館が活用されるようになった。

■ 自治体における効果

- ・ 読書教育及び読書施策の成果と課題を検証し、今後の改善方策の検討に有効な情報が入手できた。

■ 学校、地域の連携による効果

- ・ 高等学校や保育所と市の教育機関の連携が図れた。
- ・ 小学校、中学校、高等学校間の交流によって、読書習慣づくりに対する意識が高まった。
- ・ 学校、家庭、地域、行政など地域全体において、読書に対する意識が高まった。

2. 子ども読書応援団推進事業

■ 読書ボランティアの活動による効果

- ・ 読書ボランティアを活用する学校が増加した。
- ・ 読書ボランティア団体の活動が活発化した。

■ 学校、地域の連携による効果

- ・ 友達、親子などグループで図書館を利用する人が増加した。
- ・ 学校、公共施設、ボランティア団体等の関係者の読書活動の推進に対する認識が高まった。
- ・ 「子ども読書の日(4/23)」に関する図書館等の取組数が増加した。

■ 子どもの読書活動推進計画の策定による効果

- ・ 市町村において読書活動推進計画の策定の気運が高まった。

3. 子ども読書ボランティアリーダーの育成事業

■ 読書ボランティア活動による効果

- ・ 市町村の行政機関等と連携して活動したことから、読み聞かせボランティアのネットワークが形成できた。
- ・ ボランティアのニーズに答えることが可能となり、ボランティアがより高い意識で活動するようになった。
- ・ 読書ボランティアなど地域の大人が子どもたちの成長に直接的にかかわることができるようになった。
- ・ ボランティアリーダー養成講座の実施により、ボランティアと学校・図書館等の連携を深めることができた。

■ 子どもの読書活動推進計画の策定による効果

- ・ 計画の策定により、子ども、学校、読書サークル、図書室利用者など多くの人が読書活動を行うための基盤ができた。
- ・ 県教育委員会内における、子どもの読書を推進するための連携が強化された。

4. オーサー・ビジット事業

■ 絵本作家等にふれあうことにおける効果

- ・ 絵本作家と直接触れ合うことにより子どもの本に対する興味が高まった。
- ・ 絵本作家本人に出会えたことは子どもにとって大きな感動となり、子どものチャレンジ意欲の向上につながった。
- ・ 子どもが本と出会うためのきっかけが作れた。
- ・ 本の世界の楽しさを知ること、読書が好きという子どもが増加した。

5. 調査研究事業

■ 子どもにおける効果

- ・ 本の世界の楽しさを知ること、読書好きの子どもが増加した。

■ 家庭における効果

- ・ 保護者に対する啓発活動により、保護者の読書に対する意識が高まった。
- ・ 親子で参加できる事業の開催により、家庭における読書の推進につながった。

■ 学校、地域の連携による効果

- ・ ボランティアが中心となって学校、地域で読み聞かせ等を実施することにより、子どもの読書活動の習慣化が図られ、本に親しむ機会が増えた。
- ・ 子どものみならず、地域住民の読書に対する理解が深まった。

6. 子ども読書地域フロンティア事業

■ 子どもにおける効果

- ・ 「読書が好き」と回答した公立小・中学校の子どもの割合は75%程度で、全国平均（※小学生71.8%、中学生67.4%、平成21年度全国学力・学習調査より）より高くなった。
- ・ 1ヶ月の間に書籍を全く読まない児童生徒の割合が減少した。
- ・ おはなし会の開催やテーマに応じた図書の展示などを通して、子どもが本に興味をもつようになった。

■ 図書館における効果

- ・ 児童書の貸出冊数が増加した。

■ 学校、地域の連携による効果

- ・ 学校図書館、市町立図書館・公民館だけではカバーできない部分が補完できた。

■ 子どもの読書活動推進計画の策定による効果

- ・ 計画を策定している市町村数が増加した。

(3) 取組参加者に対する調査の対象自治体の選出

本調査では、本調査後に行う子ども、学校の先生、保護者等の取組参加者に対する調査の予備的調査を兼ねており、文部科学省委託事業の受託自治体における活動状況に関する調査結果を踏まえて、受託自治体の中から取組参加者の実態や効果を把握するための調査を実施する対象自治体を選出した。

選定に当たっては、アンケート調査の結果のうち、今後の調査に対する協力の意向、活動の成果の設問を基準に、北海道から九州までの各ブロックから11自治体を選出し、「文部科学省委託事業の受託自治体における取組参加者に対する調査」を実施した。

2. 文部科学省委託事業の受託自治体における「子どもの読書活動推進計画」の状況

(1) 収集・整理の目的と方針

文部科学省委託事業の受託自治体のうち、第1章の1の(3)で選出した11自治体における「子どもの読書活動推進計画」の策定状況や計画内容を把握し、第1章の3.で実施する「文部科学省委託事業の受託自治体における取組参加者に対する調査」の基礎資料とした。

ここでは、子どもの読書活動推進計画を策定している8自治体と、自治体の独自の計画を策定している2自治体の計画について下記のとおり整理した。

【分類・整理の方針】

各自治体の「子ども読書活動推進計画」の内容を比較するため、以下の項目で分類・整理した。

- ・ 計画の有無
- ・ タイトル
- ・ 策定日
- ・ 具体的な取組（具体案）

II. 調査実施内容

第1章 子どもの読書活動を推進するための取組を実施している自治体について

2. 文部科学省委託事業の受託自治体における「子どもの読書活動推進計画」の状況

(2) 整理の結果

市町村	計画有無	策定日	具体的な取組						普及啓発	その他
			家庭	学校	幼稚園・保育園	公民館・図書館	ボランティア団体			
北海道 A自治体	○	H18.3	1.家庭 一親子で楽しむ読書の環境づくり(ブックスタート事業への参加、家庭による読み聞かせの推進、日常からの読書習慣の形成、子どもの生涯にわたる「読書の芽」を育成、家庭で図書室・書店等の利用促進、など)	2.学校 (1)学校における読書習慣を身につける機会の提供、(2)学校図書室の読書環境の整備充実、(3)学校における読書活動の普及啓発と学校関係者の意識の高揚	3.幼稚園・保育園など 一読書の楽しさに触れるための読み聞かせ等の充実(あらゆる機会を通じた読み聞かせの充実、読み聞かせや読書指導方法等の研修会への参加、読み聞かせ等の理解の促進、など)	5.町民センター図書室 一(1)読書活動の推進事業の実施、(2)図書室の読書環境の整備充実	4.地域・ボランティア団体 一子どもへの読書の楽しさや親しむ機会の提供(学校と協力した読み聞かせなどの実施、図書室と協力した指導者講習会などの実施、読書ボランティアネットワークの整備充実、など) (3)町民団体などへの支援・連携、読書情報の提供(ボランティアとの連携)			
北海道 B自治体	○	H17.3	1.家庭・地域における読書活動の推進 一母子保健事業として妊娠期間中から本の読み聞かせの効用・方法を紹介、読書ボランティア等の研修や学習機会の提供及び保育士・保健師との交流による活動しやすい環境づくり、など	2.学校における読書活動の推進 一図書室の環境整備と蔵書の充実、PTA・学校・地域・ボランティア等と行政が連携し学校での読書活動を支援・奨励、など		3.公民館図書室における条件整備 一子育てサークルや検診等で人の集まる機会に配本、子どもを対象とした「公民館図書室だより」を発行し読書活動の啓発を図る、など 4.関係機関の連携・協力による読書活動の推進と条件整備 一学校図書室と公民館図書室の関係を密にし、団体配本や学級文庫への貸し出し等を行い子どもが多くの本に触れられる機会を提供、学校巡回移動図書を継続、など		5.子どもの読書活動推進の理解と普及 一「生涯学習だより」やリーフレット等による情報提供を行い家庭・地域への意識を啓発、子ども向け「公民館図書室だより」で話題作のブックレビュー等を行い子どもの読書活動を啓発、など		
秋田県 C自治体	計画の内容を 検討中	-								
茨城県 D自治体	自治体の 独自計画	H.19.6	親子の、読書を通してのコミュニケーションを培うために、[家庭で]【家読(うちどく)】に取り組みます。	児童生徒に読書の習慣を育むために、[小中学校で]【朝の読書】に取り組みます。	園児に読書の楽しさを伝えるために、[保育所・幼稚園で]【読み聞かせ】に取り組みます。	赤ちゃんを読書の世界へ導くために、[保健センターで]【ブックスタート】に取り組みます。			読書の環境を整えるために、[町中で]力を合わせ全力で取り組みます。	
群馬県 E自治体	自治体の 独自計画		【家庭】 ①親子20分間読書活動の推進	【学校】 ①朝読書の実施による読書習慣づくりと読書活動の推進 ②調べ学習コーナーの設置等による魅力ある学校図書館づくりの工夫 ③学校図書館担当教職員の研修や教育研究所による調査研究活動の実施 ④蔵書のデータベース化の推進による蔵書管理の効率化とデータの活用への推進		【図書館・公民館・児童館等】 ①ブックスタート事業 ②親子でびよんびよん事業 ③図書館、公民館、児童館における読み聞かせの会、読書関連講座の推進 ④図書館調べ学習コーナーの設置	【読書グループ・市民団体】 ①子ども読書交流会の実施(子ども読書週間) ②大人と子ども読書の集い(秋の読書週間) ③各地域での読み聞かせボランティア学習会の実施 ④PTA親子20分間読書活動の展開 【推進会議、読み聞かせボランティアネットワーク会議】 ①会議の開催 ②情報の発信 ③市民の読書に関する実態調査の実施			

II. 調査実施内容

第1章 子どもの読書活動を推進するための取組を実施している自治体について 2. 文部科学省委託事業の受託自治体における「子どもの読書活動推進計画」の状況

市町村	計画有無	策定日	具体的な取組						
			家庭	学校	幼稚園・保育園	公民館・図書館	ボランティア団体	普及啓発	その他
新潟県 F自治体	○	H21.3 (第2次)	1.家庭 ・家庭教育手帳の周知、子育て電話相談等を通じた家庭での読み聞かせや読書の習慣付けの重要性の理解促進、など	(2)小中学校 :新潟県学校図書館協議会等と連携・協力による各学校への指導や調査結果・実践事例等の情報提供、学校図書館の一層の有効活用や児童生徒等の利用促進、など (3)障害児の読書活動:特別支援学校における読書指導の一層の充実、など	(1)幼稚園・保育所 :「子ども読書の日」の周知・啓発、子どもや保護者に対する読書活動の重要性の理解・関心の普及、など	(1)図書館 :児童書の収集・貸出の再開、子ども図書館の常設化、図書館未設置町村への設置促進、図書館や近隣市町村の連携による読書環境の整備、など (2)児童館 :児童館職員への研修会の開催、県立児童館「こども自然王国」の蔵書整備、など (3)放課後子ども教室:指導者研修会等や情報提供を通じた読書活動の理解促進、など	(4)民間団体等 :ボランティアリーダーの養成、県内のボランティア活動の情報提供、ボランティア団体のネットワークづくりの推進、など	4.普及・啓発活動 (1)広報活動の推進、「子ども読書の日」や「文字・活字文化の日」について県民の周知・啓発、先進的な取組や子どもの読書活動に関する事業と効果についてホームページ等を活用した情報提供、など (2)優れた取組の奨励:文部科学省の表彰事業に積極的に協力、県コンクールの表彰等を通じて優れた取組の顕彰、など	(4)学校等と家庭と地域の連携:県教育委員会発行の広報紙「かけはし」等による広報活動、コーディネーター養成研修会や成果発表会等の機会を通じた学校・家庭・地域が一体となった読書環境づくりや読書活動への取組などの周知・啓発、など 5.推進体制 ・県・市町村・学校・図書館・民間団体等関係者の連携・協力の具体的な方策について協議・検討、「市町村子ども読書活動推進計画」が策定に向けた支援、など
愛知県 G自治体	○	H20.3	2.年齢別の取り組み (1)0～2歳: ①絵本を通じた親子のふれあいブックスタート事業の充実、家庭内読み聞かせ実施率向上(現状80%→目標90%)、など②妊娠前から読み聞かせの楽しさや大切さを伝える一母子健康手帳交付時に読み聞かせのチラシ配布、など③子どもと本の出会いの機会を提供一初めての絵本コーナーの充実、など④おはなし会を定期的に開催一「ひよこランド」の参加者増加(現状41%→目標60%)、など⑤年齢に応じた読書活動を推進一年齢別お勧め絵本のリスト作成、など	(3)7～18歳: ①学校図書館を計画的に利用②本に接する機会を提供③教科等の学習活動への支援体制を強化④支援を必要とする児童・生徒の読書活動を推進⑤教職員の指導力向上⑥環境を整備⑦図書の整備、充実⑧学校図書館の情報化⑨司書教諭や学校司書者による支援促進	2.年齢別の取り組み (2)3～6歳:①本に接する機会を提供一「読み聞かせ会」「土曜おはなし会」の参加者増加(現状41%→目標60%)、など②保護者の意識向上一家庭内での読み聞かせの啓発、読書相談の実施、など③保育園、児童館の読書環境整備一保育室図書コーナーの整備、児童館図書室の整備、など④保育士等の読書に関する知識の向上一保育士等への図書関連情報の提供、など	1.総合的な取り組み (3)担当職員の資質の向上一図書館員の技術研修、調査、研究会の開催、など	1.総合的な取り組み (4)社会全体での推進体制をつくる一読み聞かせやブックスタートのボランティア養成講座の開催、など	1.総合的な取り組み (1)読書活動の理解と関心の普及一「きら読書の日(仮)」を設置、親子での図書館利用促進(現状48%→目標60%)、など	1.総合的な取り組み (2)子どもの読書環境整備、充実一児童図書コーナーの充実、おはなしコーナーの充実、など
京都府 H自治体	○	H18.4	(1)家庭 ○家庭における啓発活動 ・乳幼児期から子どもたちが本と接する機会を増やす啓発/ ・本の魅力や読書の意義について理解の促進を図る/ ・民話や童話の語りかけ、読み聞かせ、親子読書を家庭で行うことの勧め	(2)学校等 ○小・中学校 ・児童生徒が読みたくなるような環境づくり/ ・推薦図書の紹介など読書意欲を喚起する取組…など ○学校図書館 ・市内全小中学校に「学校図書館指導員」を配置し児童・生徒の学習活動を積極的に支援/ ・学校図書館の蔵書・図書資料の充実、など	(2)学校等 ○保育所・幼稚園 ・幼児が自由に絵本を手にとり見ることが出来る環境整備/ ・日常保育における読み聞かせやおはなしの充実…など	(4)効果的な子どもの読書活動の推進 ・市立図書館(室)等の図書資料の整備・充実/ ・学校への図書資料の貸出や本の読み聞かせ・ブックトーク等、市立図書館(室)と学校図書館の連携・協力…など	(3)地域社会 ・市広報や市ホームページによる広報活動と啓発活動/ ・各種講座の開催(乳幼児～成人)…など		

II. 調査実施内容

第1章 子どもの読書活動を推進するための取組を実施している自治体について

2. 文部科学省委託事業の受託自治体における「子どもの読書活動推進計画」の状況

市町村	計画有無	策定日	具体的な取組						
			家庭	学校	幼稚園・保育園	公民館・図書館	ボランティア団体	普及啓発	その他
鳥取県 I自治体	○	H18.12	1.子どもの読書活動の推進 (1)家庭・地域①ブックスタート事業の充実、②子育てサークル等の読書活動の充実	1.子どもの読書活動の推進 (3)学校①学校図書館の機能の充実、②読書に関連する行事の充実、③司書教諭や学校司書の資質の向上、④保護者への啓発、⑤読書ボランティアとの協力 2.読書活動推進のための環境整備と人材育成 (3)学校司書の配置の充実	1.子どもの読書活動の推進 (4)保育所①読書環境の充実、②日常保育における読み聞かせ、お話会の充実、③保護者への啓発、④図書館の見学	1.子どもの読書活動の推進 (2)図書館①図書館の充実、②図書館行事の開催、③団体貸し出しの充実、④学校との連携、⑤図書巡回活動の充実 2.読書活動推進のための環境整備と人材育成 (2)図書館の充実①町内図書館の施設整備、県立図書館と連携した職員の資質向上(4)読書ボランティアの活動支援とネットワークづくり②図書館等による活動場所や資料・機材の提供、ボランティア育成講座の開催、図書館を中心とした読書ボランティア団体等のネットワーク構築	1.子どもの読書活動の推進 (3)学校⑤読書ボランティアとの協力 2.読書活動推進のための環境整備と人材育成 (4)読書ボランティアの活動支援とネットワークづくり③図書館等による活動場所や資料・機材の提供、ボランティア育成講座の開催、図書館を中心とした読書ボランティア団体等のネットワーク構築	3.啓発・広報 (1)啓発活動の推進①「子ども読書の日」などの機会をとらえた啓発(2)広報活動の推進①町報、チラシ、町ホームページを活用した子どもの読書活動に関する広報活動(3)情報の提供①図書館における選書や読書案内の実施、保育所や学校で配布する図書館だよりでの新着本の紹介	1.子どもの読書活動の推進 (5)障害児対応①障害のある子どもが利用しやすい読書環境の整備 2.読書活動推進のための環境整備と人材育成 (1)地域における子ども読書環境の整備①楽しく読書できる図書サービスマ環境の整備、施設職員に対する研修
高知県 J自治体	○	H18.11	◆家庭における読書活動推進のための具体的な取り組み ・親子参加型の読み聞かせ等の研修会・講座の開催、家庭教育手帳等を活用した読書・読み聞かせの啓発、など	2 民間団体への支援・協働 ◆学校等における読書活動推進のための具体的な取り組み 2 小学校・中学校における読書活動の推進 (1)読書活動の充実／(2)学校図書館の整備・充実／(3)学校図書館の情報化／(4)人的配置の充実／(5)地域・家庭との連携 3 高等学校における読書活動の推進 (1)読書活動の充実／(2)学校図書館の整備・充実／(3)生徒の自主的な読書活動の促進／(4)地域・家庭との交流	2 民間団体への支援・協働 ◆学校等における読書活動推進のための具体的な取り組み 1 保育所・幼稚園における読書活動の推進 (1)読書活動の充実／(2)読書環境の整備	◆地域における読書活動推進のための具体的な取り組み 1 公立図書館における読書活動の推進 (1)県立図書館における読書活動の推進／(2)市町村立図書館及び公民館図書室での活動推進への支援／(3)特別な支援が必要な子どもへの支援／(4)外国人の子どもへの支援 5 共通理解を図るための支援 ◆関係機関の連携・協力の推進 1 図書館相互の連携・協力 2 学校と公立図書館等の連携・協力 3 公立図書館・学校図書館とNPO法人「高知こどもの図書館」等の連携 4 公立図書館・学校図書館と「国際子ども図書館」等の連携	◆子どもの読書活動の啓発・広報の推進 1「子ども読書週間」等を中心とした啓発活動の推進 2 優れた取り組みの奨励や図書館の普及・啓発		
大分県 K自治体	○	H19.3	4.地域・家庭における今後の取組方針 ①地域①読み聞かせグループ交流会等学習機会の提供、市立図書館の寄贈本などの再利用、など ②家庭①読み聞かせの推進、4か月検診時に布絵本2冊配布、保護者の読み聞かせ会等への参加促進	2.学校における今後の取組方針 ①「朝読書」の継続、全小学校での読み聞かせ実施、環境整備・蔵書の充実、など	3.幼稚園・保育園における今後の取組方針 ①幼稚園①絵本の読み聞かせを通じた本に親しむ「基盤づくり」、保護者・ボランティアによる月1回の読み聞かせ実施、絵本コーナーの充実、など ②保育園①年齢に応じた読み聞かせの一層の工夫、図書資料の充実、絵本を身近に感じる取組の実施、保育士の資質の向上、など	1.図書館における今後の取組方針 ①ボランティア読み聞かせグループの支援②県等が実施する発表・研修会へのボランティア団体の参加推進、選書のための資料・情報の提供 ②学校図書館との連携③小中学校図書館との相互協力の推進、団体貸出の推進・調べ学習の受け入れ	1.図書館における今後の取組方針 ①ボランティア読み聞かせグループの支援②県等が実施する発表・研修会へのボランティア団体の参加推進、選書のための資料・情報の提供 4.地域・家庭における今後の取組方針 ①地域①読み聞かせグループ交流会等学習機会の提供、市立図書館の寄贈本などの再利用、など	1.図書館における今後の取組方針 ③広報・啓発の推進④子ども読書活動推進事業の充実、市報等を活用した読書の奨励、図書館・図書室情報など読書関連ホームページの充実	

3. 文部科学省委託事業の受託自治体における取組参加者に対する調査

3-1. アンケート調査の概要および結果

(1) 調査の概要

子どもの読書活動を推進するための取組に参加した自治体の子ども（小学校2年生、小学校5年生、中学校2年生）、学校の先生（学校図書館の担当者も含む）、保護者を対象に、取組の実態および効果を把握することを目的にアンケート調査を実施した。

【調査の趣旨とねらい】

子どもの読書活動を推進するためには、学校における取組だけではなく家庭や地域の環境も重要な要素であると考えます。

そのため、本調査では、地域の読書環境、読書活動の取組の実態、子どもの変容について、①子ども、②学校の先生、③保護者の評価を把握し、多面的に検証することとした。

【実施期間】

平成21年12月～22年2月

調査内容	①子どもに対する調査	②学校の先生に対する調査	③子どもの保護者に対する調査
調査対象	小学校2年生 827人 小学校5年生 888人 中学校2年生 891人	学校の先生 158人	保護者 2,117人
調査のねらい	子ども、学校の先生、保護者に対して、以下の事項に関する評価を把握し、どの要素が子どもの変容と関連性があるか、多面的に検証する。 ・地域の読書環境 ・子どもの読書活動の取組の実態 ・子どもの変容		
	1. 読書環境に関する評価 2. 取組の実態とその効果に関する評価 3. 子ども自身の変容とその要因	1. 読書環境に関する評価 2. 取組の実態とその効果に関する評価 3. 先生から見た子どもの変容とその要因	1. 読書環境に関する評価 2. 取組の実態とその効果に関する評価 3. 保護者から見た子どもの変容とその要因

II. 調査実施内容

第1章 子どもの読書活動を推進するための取組を実施している自治体について

3. 文部科学省委託事業の受託自治体における取組参加者に対する調査

具体的な調査項目	<ol style="list-style-type: none">1. 読書環境に対する評価<ul style="list-style-type: none"><家庭> 読み聞かせの有無／子どもに読書を奨めるか<学校> 学校の図書館に行く頻度/学校の図書館の評価／先生は読書が好きか<読書ボランティア> 読書ボランティアの有無／読書ボランティアの取組に対する評価<地域の図書館> 地域の図書館に行く頻度／地域の図書館の取組に対する評価<書店> 書店に行く頻度／書店の取組に対する評価<自治体> 自治体の取組に対する評価2. 取組の実態<ul style="list-style-type: none">調べ学習／読書の時間／読み聞かせ3. 前提となる読書傾向<ul style="list-style-type: none">読書が好きかどうか／読書時間／読書冊数4. 子どもの変容<ul style="list-style-type: none">本を読むようになったか／読書時間の変化／読書冊数の変化／読書の質の変化／興味や関心などの変容
----------	--

(2) 調査結果の概要

本調査は、子どもの読書活動に影響を与えると考えられる読書環境、学校や地域における取組の実態、子どもの態度の変容を中心に調査結果をとりまとめた。

1) 地域の読書環境に関する評価(子ども、学校の先生、保護者)

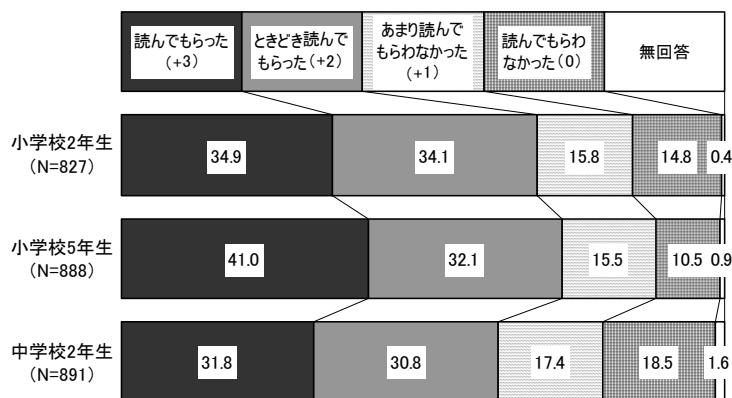
子どもの読書活動に影響を与えると考えられる読書環境のうち、「家庭における読み聞かせの有無」「読書ボランティアの取組に対する評価」「地域の図書館の取組に対する評価」「自治体の取組に対する評価」の結果をとりまとめた。

① 家庭における読み聞かせの有無

<子ども>

子どもは、「小学校に入る前に家の人に本(絵本)を読んでもらった」と回答した人が、小学校2年生で34.9%、小学校5年生で41.0%、中学校2年生で31.8%となっている。

Q. あなたは小学校に入るまえに、家の人に本(絵本)を読んでもらいましたか。
(%)



(参考)

全国学校図書館協議会・毎日新聞社「第54回学校読書調査」結果から

◇ 家族による読み聞かせの経験 (2008年)

(小学校4~6年生)

よく読んでもらった 35.0%

ときどき読んでもらった 37.0%

あまり読んでもらわなかった 17.6%

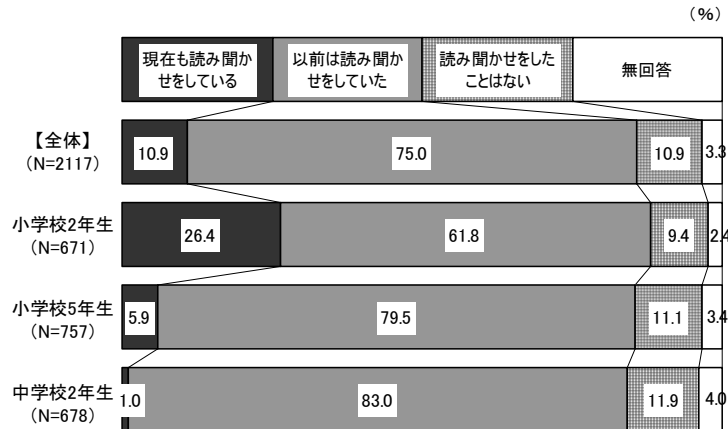
まったく読んでもらわなかった 17.6%

<保護者>

保護者は、「現在も読み聞かせをしている」と回答した人が 10.9%、「以前は読み聞かせをしていた」と回答した人が 75.0%となっている。

また、学年別でみると、小学校 2 年生の保護者で「現在も読み聞かせをしている」と回答した人が 26.4%で他の学年に比べて高い割合となっており、「以前は読み聞かせをしていた」と回答した人は学年があがるほど割合が高くなっている。

Q. あなたは、お子さんに本（絵本）の読み聞かせをしていましたか。読み聞かせをしている（していた）場合は、その時期について教えてください。

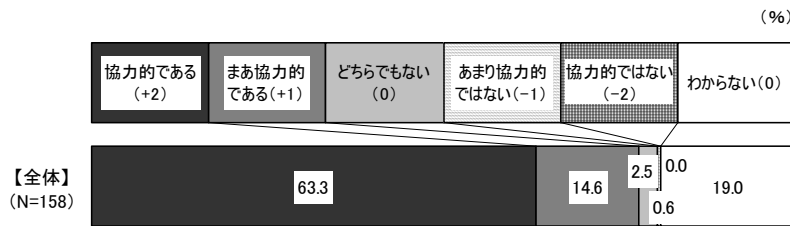


②読書ボランティアの取組に対する評価

<学校の先生>

学校の先生は、「協力的である」と回答した人が 63.3%、「まあ協力的である」と回答した人が 14.6%となっており、両方を合わせると 77.9%となっている。

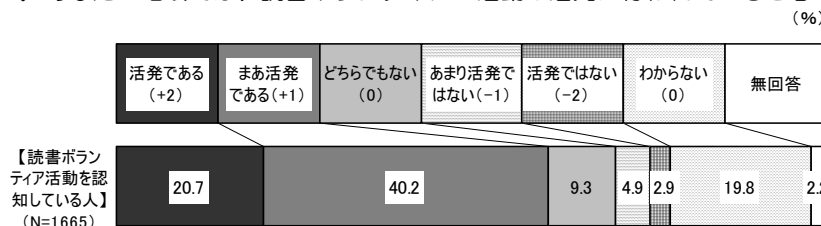
Q. 地域の読書ボランティアは、子どもの読書活動の取組に協力的ですか。



<保護者>

保護者は、読書ボランティアの活動状況が「活発である」と回答した人が 20.7%、「まあ活発である」と回答した人が 40.2%となっており、両方を合わせると 60.9%となっている。

Q. あなたの地域では、読書ボランティアの活動が活発に行われていると思いますか。

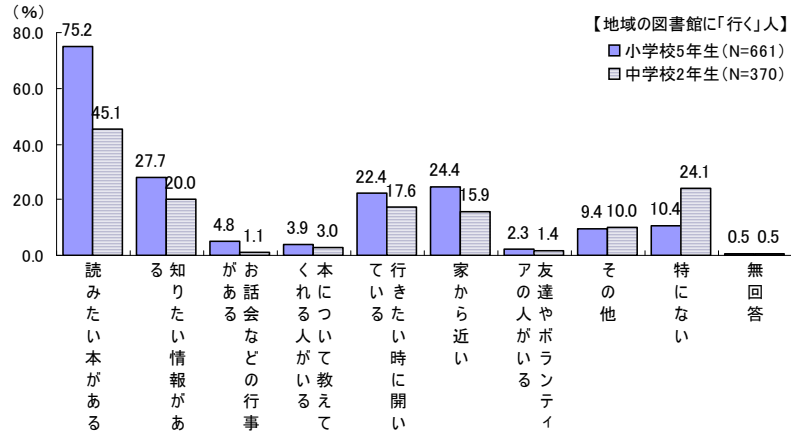


③地域の図書館の取組に対する評価

<子ども>

子どもは、「読みたい本がある」と回答した人が、小学校5年生で75.2%、中学校2年生で45.1%となっており、それぞれ最も高くなっている。

Q. あなたは地域の図書館のどんなところが好きですか。



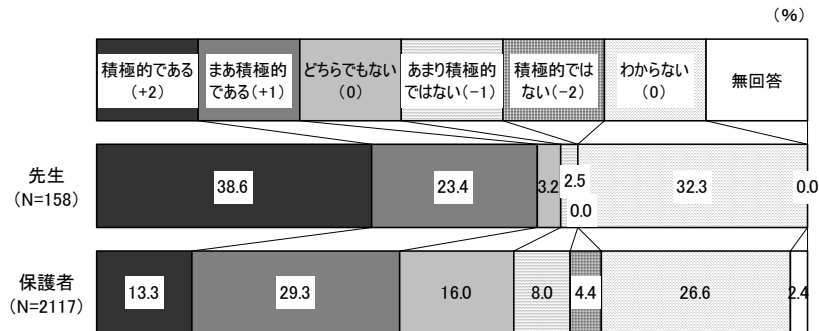
※小学校2年生には質問していない。

<学校の先生・保護者>

学校の先生は、「積極的である」と回答した人が38.6%、「まあ積極的である」と回答した人が23.4%となっており、両方を合わせると62.0%となっている。

また、保護者は、「積極的である」と回答した人が13.3%、「まあ積極的である」と回答した人が29.3%となっており、両方を合わせると42.6%となっている。

Q. あなたの地域の図書館は、子どもの読書活動に積極的に取り組んでいると思いますか。



④自治体の取組に対する評価

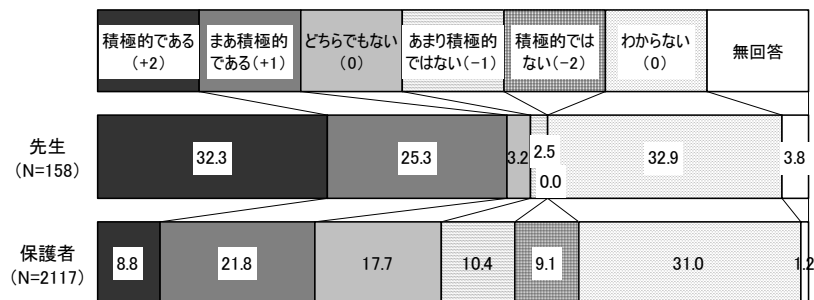
<学校の先生・保護者>

学校の先生は、「積極的である」と回答した人が 32.3%、「まあ積極的である」と回答した人が 25.3%となっており、両方を合わせると 57.6%となっている。

また、保護者は、「積極的である」と回答した人が 8.8%、「まあ積極的である」と回答した人が 21.8%となっており、両方を合わせると 30.6%となっている。

Q. あなたの地域の自治体は、子どもの読書活動に積極的に取り組んでいると思いますか。

(%)



2) 子どもの読書活動を推進するための取組の実態に関する評価

(子ども、学校の先生、保護者)

学校における読書活動の取組は、文献資料等の結果から「調べ学習などによる読書活動」「朝の読書や読書の時間などの全校一斉読書」「読書ボランティアなどによる読み聞かせやブックトーク」「教師や司書などによる推薦図書や課題図書の選定、紹介」「学校の図書館（図書室）の環境改善」「保護者に対する読書活動の啓発」などがあげられている。

このうち、多くの学校で実施されている「調べ学習などによる読書活動」「朝の読書や読書の時間などの全校一斉読書」「読書ボランティアなどによる読み聞かせやブックトーク」に対する子ども、学校の先生、保護者の評価をとりまとめた。

(参考)

文部科学省 平成20年度「学校図書館の現状に関する調査」結果から

公立学校図書館を活用した様々な取組等について調査

【全校一斉の読書活動の実施状況等】

	全校一斉読書活動の実施状況	うち朝の始業前に実施しているものの割合	図書の読み聞かせの実施	ブックトークの実施
小学校	97.9%(94.4%)	89.9%	94.0%	37.3%
中学校	88.3%(84.1%)	81.9%	23.9%	16.5%

	必読書コーナー、推薦図書コーナーの設置	目標とする読書量の設定	校種間連携による取組(中学生が小学生に読み聞かせを行う等)	家庭における読書活動への支援等(親子読書会の開催等)
小学校	62.9%	86.0%	4.4%	21.7%
中学校	54.1%	35.9%	4.7%	2.4%

※20年5月現在。()内は19年5月現在の数値。

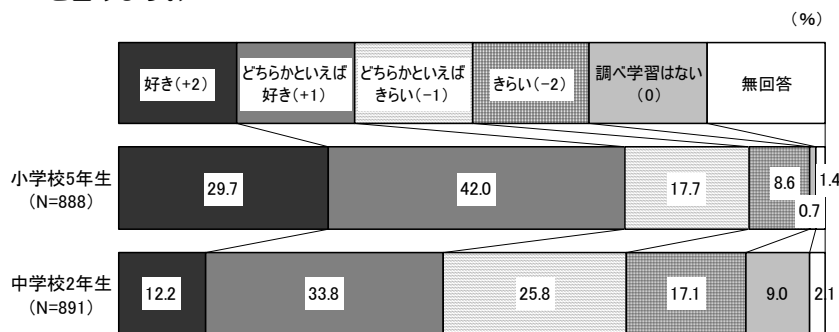
①調べ学習などによる読書活動

<子ども>

小学校5年生は、「調べ学習が好き」と回答した人が29.7%、「どちらかといえば好き」と回答した人が42.0%となっており、両方を合わせると71.7%となっている。

中学校2年生は、「調べ学習が好き」と回答した人が12.2%、「どちらかといえば好き」と回答した人が33.8%となっており、両方を合わせると46.0%となっている。

Q. あなたは学校で行う本を使った調べ学習が好きですか。(ここでは辞書、百科事典、図鑑を含みます。)



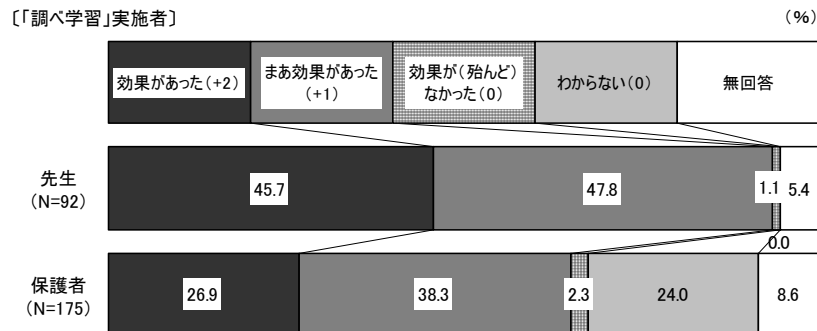
※小学校2年生については、調べ学習などによる読書活動についての質問はしていない。

<学校の先生・保護者>

学校の先生は、「調べ学習」が「効果があった」と回答した人が45.7%となっている。

また、保護者は、「調べ学習」が「効果があった」と回答した人が26.9%となっている。

Q. 学校の読書活動で知っているものに○をつけてください。
(○をつけた方に) それぞれどの程度の効果があったと思いますか。



②朝の読書や読書の時間などの全校一斉読書

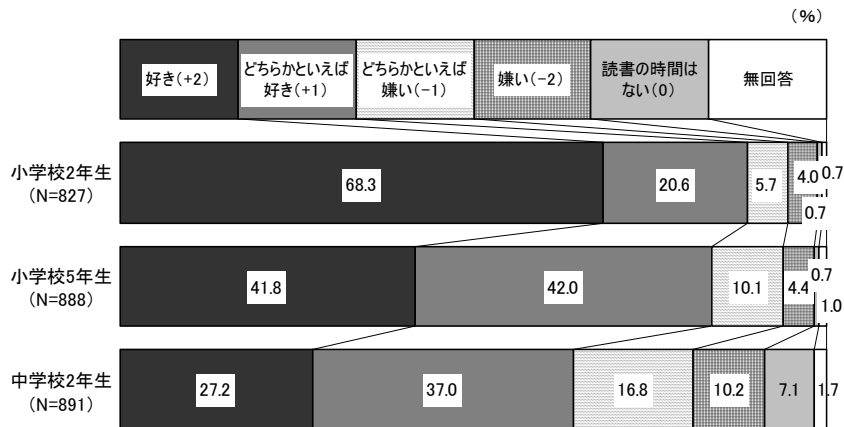
<子ども>

小学校2年生は、「読書の時間が好き」と回答した人が68.3%、「どちらかといえば好き」と回答した人が20.6%となっており、両方を合わせると88.9%となっている。

小学校5年生は、「読書の時間が好き」と回答した人が41.8%、「どちらかといえば好き」と回答した人が42.0%となっており、両方を合わせると83.8%となっている。

中学校2年生は、「読書の時間が好き」と回答した人が27.2%、「どちらかといえば好き」と回答した人が37.0%となっており、両方を合わせると64.2%となっている。

Q. あなたは学校の読書の時間が好きですか。

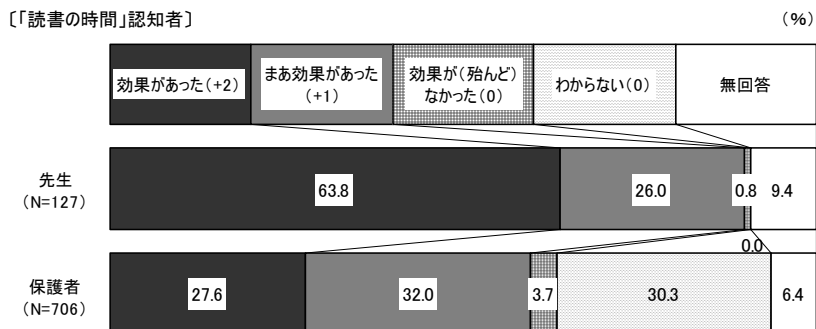


<学校の先生・保護者>

学校の先生は、「読書の時間」が「効果があった」と回答した人が63.8%となっている。

また、保護者は、「読書の時間」が「効果があった」と回答した人が27.6%となっている。

Q. 学校の読書活動で知っているものに〇をつけてください。それぞれどの程度の効果があったと思いますか。



③読書ボランティアなどによる読み聞かせやブックトーク

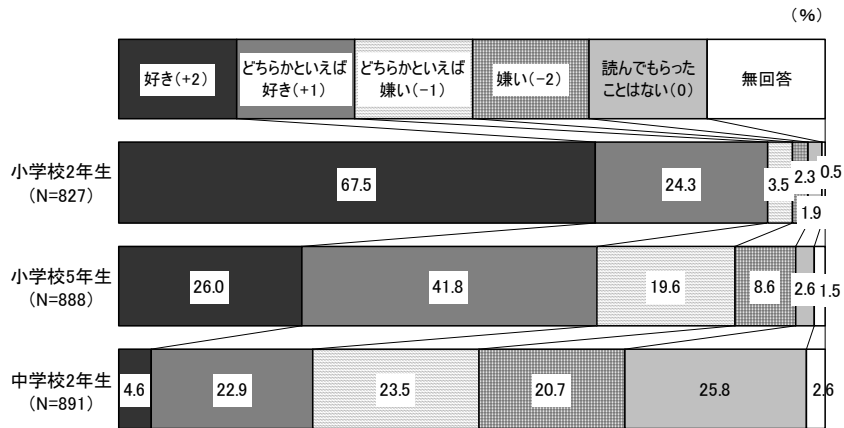
<子ども>

小学校2年生は、「本を読んでもらうことが好き」と回答した人が67.5%、「どちらかといえば好き」と回答した人が24.3%となっており、両方を合わせると91.8%となっている。

小学校5年生は、「本を読んでもらうことが好き」と回答した人が26.0%、「どちらかといえば好き」と回答した人が41.8%となっており、両方を合わせると67.8%となっている。

中学校2年生は、「本を読んでもらうことが好き」と回答した人が4.6%「どちらかといえば好き」と回答した人が22.9%となっており、両方を合わせると27.5%となっている。

Q. あなたは学校で先生や上級生、ボランティアの人に本を読んでもらうことが好きですか。

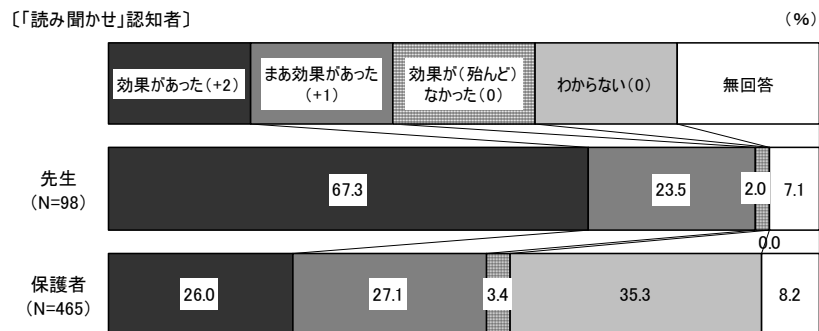


<学校の先生・保護者>

学校の先生は、「読み聞かせ」が「効果があった」と回答した人が67.3%となっている。

また、保護者は、「読み聞かせ」が「効果があった」と回答した人が26.0%となっている。

Q. 学校の読書活動で知っているものに○をつけてください。それぞれどの程度の効果があったと思いますか。



3) 取組に参加したことによる効果(子ども、学校の先生、保護者)

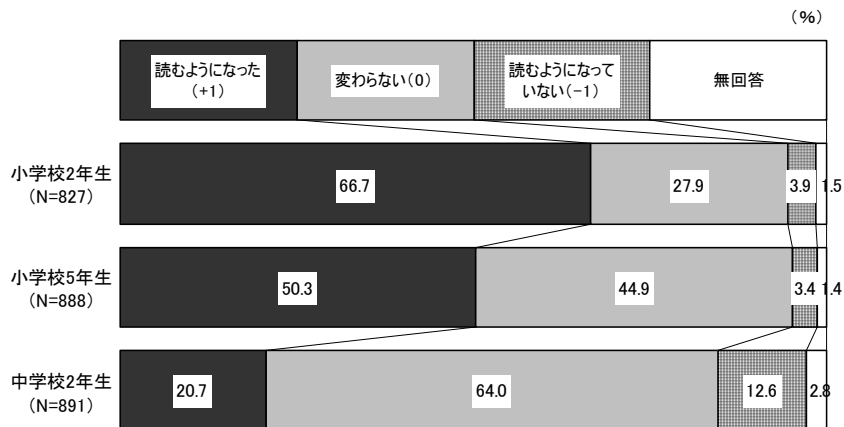
子どもの態度の変容(本を読むようになったか)、本に対する興味や関心などの変容、読書によって培われるとされる能力の変容をとりまとめた。

①本を読むようになったか

<子ども>

小学校2年生は、「前にくらべて自分でも本を読むようになった」と回答した人が66.7%、小学校5年生が50.3%、中学校2年生が20.7%となっている。

Q. あなたは学校の読書の時間や本を使った調べ学習、先生やボランティアの人に本を読んでもらうことなど、学校の読書活動によって、前にくらべて自分でも本を読むようになりましたか。

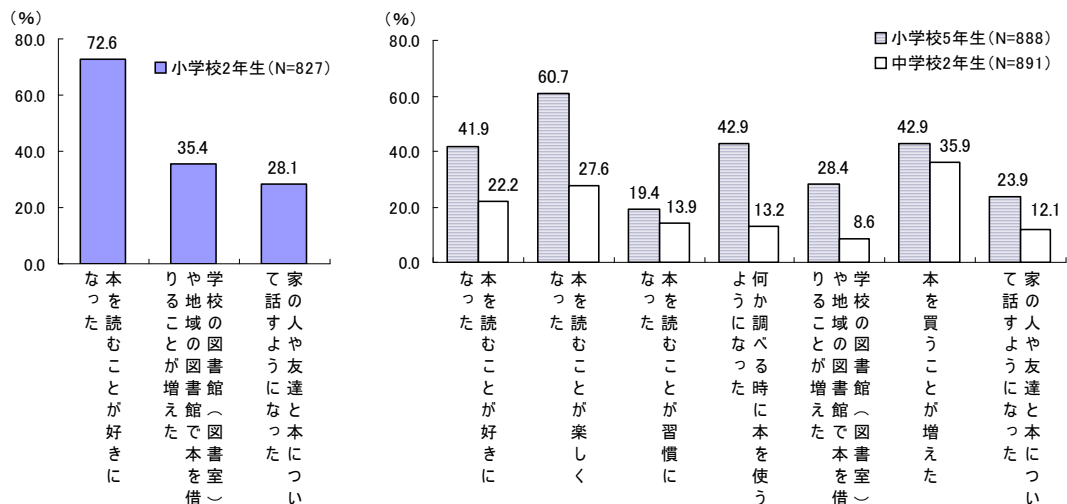


②興味・関心などの変容

<子ども>

小学校2年生は、「本を読むことが好きになった」と回答した人が72.6%、小学校5年生は、「本を読むことが楽しくなった」と回答した人が60.7%、中学校2年生は、「本を買うことが増えた」と回答した人が35.9%となっており、それぞれ最も高くなっている。

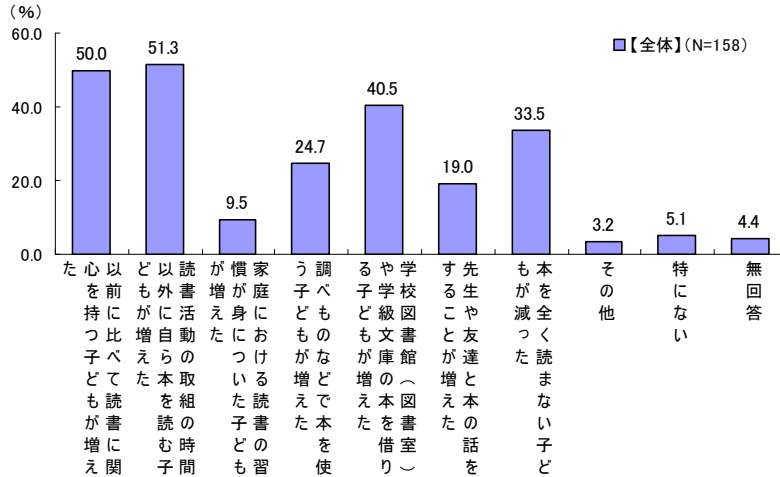
Q. あなたは学校の読書活動で、良かったことがありますか。



<学校の先生>

学校の先生は、「読書活動の取組の時間以外に自ら本を読む子どもが増えた」と回答した人が 51.3% となっており、最も高くなっている。

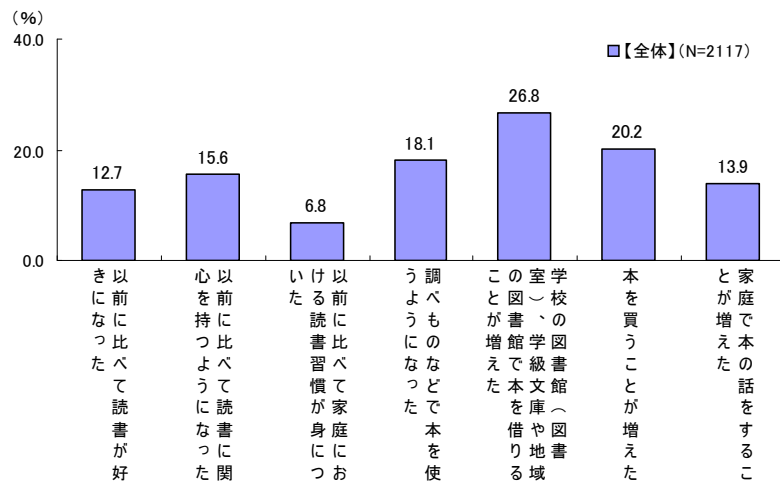
Q. 子どもの読書に対する興味や関心など行動に変化はありましたか。



<保護者>

保護者は、「学校の図書館(図書室)、学級文庫や地域の図書館で本を借りることが増えた」と回答した人が 26.8% となっており、最も高くなっている。

Q. あなたのお子さんは、この1年間ぐらいで読書に関してどのような変化が見られましたか。

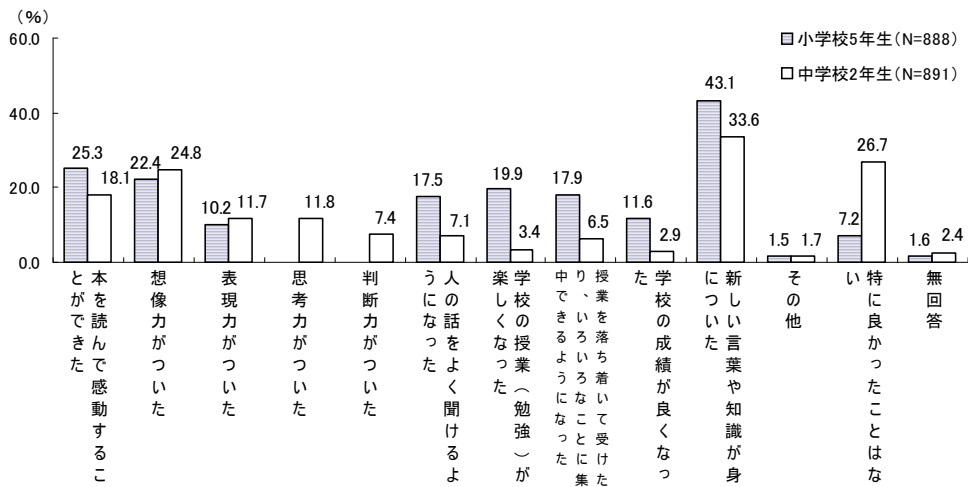
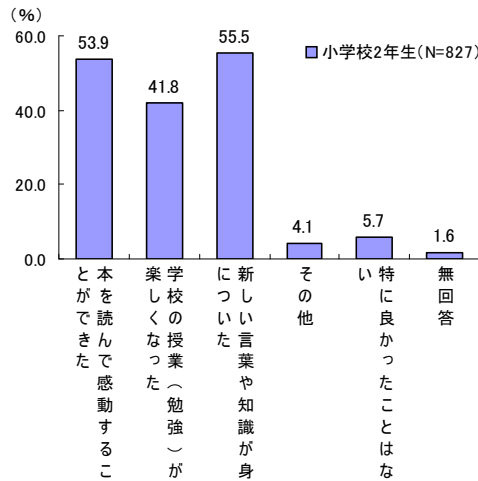


③読書によって培われるとされる能力の変容

<子ども>

小学校2年生は、「新しい言葉や知識が身についた」と回答した人が55.5%、小学校5年生が43.1%、中学校2年生が33.6%となっており、最も高くなっている。

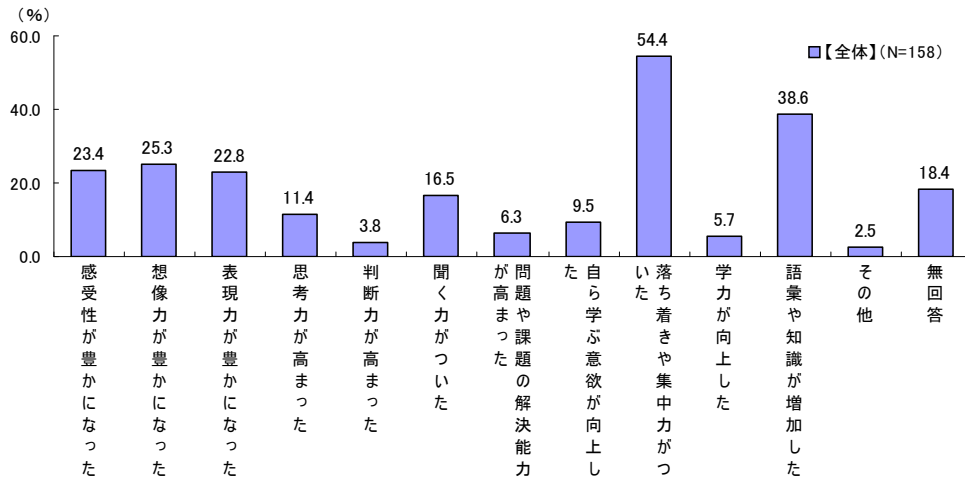
Q. あなたは学校の読書活動で、良かったことがありますか。



<学校の先生>

学校の先生は、「落ち着きや集中力がついた」と回答した人が 54.4%となっており、最も高くなっている。

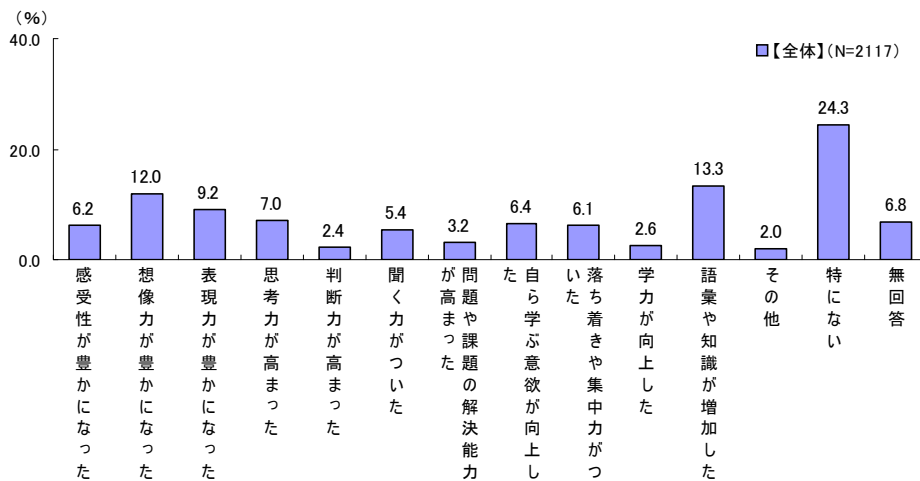
Q. 読書活動の取組を行ったことで、読書によって培われるとされる能力の変化についてあてはまる変化の内容に○をつけてください。(取組に参加した子ども全体のイメージや傾向でお答えください)



<保護者>

保護者は、「語彙や知識が増加した」と回答した人が 13.3%となっており、最も高くなっているが、「特にない」と回答している人が 24.3%存在している。

Q. あなたのお子さんには、この1年間ぐらいで読書に関してどのような変化が見られましたか。



3-2. ヒヤリング調査の概要および結果

(1) 調査の概要

【調査の趣旨】

「子どもの読書活動を推進するための取組に関するアンケート調査」に回答のあった自治体の中から、取組内容や取組を進める際の問題、課題、工夫、効果などについて、アンケート調査だけでは把握できない情報を定性的に収集し、読書活動を推進するための取組に関する実態を把握することを目的にヒヤリング調査を行った。

【ヒヤリング対象と実施日】

●京都府南丹市 2010年2月12日（金）

（ヒヤリング対象）

- ・行政の担当者
- ・図書館の担当者
- ・中学校の先生
- ・学校図書館の補助要員

●茨城県大子町 2010年2月15日（月）～2月16日（火）

（ヒヤリング対象）

- ・行政の担当者
- ・図書館の担当者
- ・小学校の先生
- ・中学校の先生
- ・読書ボランティア団体

【質問項目】

1. 力を入れている取組
2. 工夫していること
3. 取組の成果、子どもの変容、成功の要因
4. 問題・課題、今後の対応
5. 委託事業終了後における自治体の取組の方向性
6. その他

(2)調査結果の概要

1)京都府南丹市

1. 力を入れている取組

■ 町ぐるみで読書活動を推進（自治体）

- ・ 公共図書館と学校現場の連携により、町が一丸となって読書活動を推進している。

■ 学校図書館指導員制度（自治体）

- ・ ボランティア養成講座に参加した人の中から、小学校17校、中学校4校に各1名以上の学校図書館指導員を配置し、子どもの読書活動の推進に向け、学校図書館の読書環境の整備や相談に対応している。そのため、無人ではなく『人』のいる学校図書館となり、学校図書館の役割を十分に機能させることができた。
- ・ 学校図書館指導員は、1人あたり年間約500時間の勤務となっているため、学校の運営状況にあわせて勤務時間を調整している。なお、司書教諭を補助する存在であり、ボランティアとは異なる位置づけとなっている。

■ 作家本人による読み聞かせや講演会（小学校、中学校）

- ・ 中学生、小学生を対象にそれぞれ直木賞作家や絵本作家を招へいした。その後、事業対象を拡大し、これまでに14校で実施した。

■ 「本のちょきん通帳」（図書館）

- ・ 平成15年から、借りた本の定価を記録する「本のちょきん通帳」の取組を始めた。この取組は、資料の延滞や、資料の扱いが乱雑であることに対応するため、利用者の公共図書館の資料に対する原価意識を高めることや利用者と図書館職員のコミュニケーション・ツールとして活用することを目的に実施している。

■ 読書の集い（中学校）

- ・ 読書に対する関心を広げることを目的に、年3回、新任の先生や学校図書館指導員による本の紹介、読み聞かせボランティアによる朗読、図書館長によるブックトークなどを実施している。

2. 工夫していること

■ 「聞く力」と「イメージする力」をつけることに重点をおいた取組（自治体）

- ・ 学校の先生の話「聞く力」が無いと学力に繋がらない。また、聞いたことを「イメージする力」が無いと言葉で説明されたことが理解できない。
- ・ 読書活動においては、「聞く力」と「イメージする力」に重点を置いた取組を心がけている。

■ 国語的な発想以外の読書活動（自治体、図書館、学校）

- ・ 読書活動を国語的な分野としてだけとらえるのではなく、図形や写真など様々な発想から子どもと読書を結びつけられるような手法を模索している。特に、中学生に対してはクラブ活動と読書活動を融合した『クラブ読書』を推進し始めたところである。
- ・ 国語的な分野にとらわれない様々な発想を探求することで、読書によってイメージする力がつくことや、クラブ活動でイメージトレーニングが必要なことを結びつけ、読書活動とクラブ活動をミックスして考えることを推奨している。

■ 「本のちょきん通帳」の工夫によるコミュニケーションの構築（図書館）

- ・ 本の貸し借りを通帳に記録する間に子どもとコミュニケーションを図るようにしている。通帳に記録することで通常の貸出カードだけでは分からなかった子どもの図書館の利用状況を把握することができた。

■ 本の嫌いな子どもに関心を持ってもらうためにブックトークを工夫（図書館）

- ・ ブックトークをする際に本が嫌いな子どもに関心を持ってもらうための工夫をいつも考えている。おもしろかったという気持ちと一緒に本を記憶させることが大切である。

■ 学校と地域の図書館の連携（学校、地域の図書館）

- ・ 学校図書館指導員が学校の先生から宿題の内容を確認し、地域の図書館に伝達することで、事前に地域の図書館が、多くの子どもが利用する図書を把握し、貸出中にならないように配慮している。

■ 読書が楽しいと思えるように、様々なジャンルの本を選書（中学校）

- ・ 選書に当たっては、子どものニーズを把握し、適切な本を購入するために学校図書館指導員が学校の先生と相談し、文学作品だけに限らず、絵本やスポーツ選手など著名人の伝記、図鑑なども幅広くそろえるようにしている。

3. 取組の成果、子どもの変容、成功の要因

■ 自治体、地域の図書館と学校現場が一丸となった取組の実施（自治体）

- ・ 自治体や地域の図書館、学校が連携して、様々な読書活動の取組を実施するとともに、学校図書館指導員が図書館に学校の連絡を行う役割を担うなど、一丸となった取組が成功の要因である。

■ 落ち着きや聞く姿勢ができた／聞く力、イメージする力の向上（小学校、中学校）

- ・ 読み聞かせをすると、静かに聴いている様子から子どもに聞く姿勢ができたと感じる。
- ・ 読み聞かせを始めた頃（7年前）に比べて、最近では子どもの「聞く力」と「イメージする力」が向上してきたため、反応がよくなった。

■ 作家本人による講演会や読み聞かせによる興味や関心の向上（自治体）

- ・ 招いた絵本作家の話の後の感想文は、担任の先生も高く評価する内容で、子どもに対する影響といった点では即効性があった。また、本を介しておもしろい経験をすることで本が身近になったことや、教職員にとっても、読書指導の観点だけでなく、授業改善に役に立った。

■ 読み聞かせ等による学校図書館の貸出数の増加（中学校）

- ・ オーサー・ビジット事業で招いた作家について図書室に作品コーナーを設けるとともに、国語科で読み聞かせをした結果、その作家の作品を始め、図書館の本の貸出数が増加した。

■ 読書の集いに対する子どもの関心の向上（中学校）

- ・ 年3回の読書の集いに子どもが関心を持つようになった。
- ・ 読書の集いで行われるブックトークでは、毎年異なる種類の話が聞けるため、楽しみにしている生徒が多い。
- ・ 読書の集いが終わった後の子どもの感想文の内容からも効果が見受けられる。

■ 「本のちょきん通帳」の活用によるコミュニケーション機会の増加（図書館）

- ・ 「本のちょきん通帳」の実施によって地域の図書館の本の貸出数が増加した。
- ・ 貸出しを行う時に「本のちょきん通帳」に記録をつけるため、通常の貸出受付よりも時間がかかることから、図書館職員が子どもの名前を覚えられるとともに、子どもとコミュニケーションをとる機会が増えた点で効果があった。

■ 図書館におけるブックトークの工夫により興味を持った人の継続的な来館者の増加（図書館）

- ・ 図書館におけるブックトークでは、手品などの付加価値をつけるなど工夫することで、子どもが興味を示すようになった。また、保護者と一緒に来館する子どもがほとんどであるため、保護者に理解をもってもらふことやリピーターの増加につながっている。

■ 学校図書館指導員による円滑な図書館の運営／学校図書館指導員と地域の図書館の連携強化（学校図書館指導員）／図書館環境の整備（中学校）

- ・ 学校図書館指導員の活動により、本を計画的かつ効率的に購入できるようになった。
- ・ 学校図書館指導員が図書館と連絡を図ることで、学校の夏休みの課題などが分かり、多くの子どものニーズに対応できるようになった。

■ 図書室が児童や生徒のサロンの役割（学校図書館）

- ・ 図書室が本の貸し借りの場としてだけでなく、子どもが集って一緒に本を楽しむなどサロンの役割を果たしている点で効果があった。
- ・ 保健室と同様に学校に来て教室に入れない子どもが過ごす場としての役割を果たしている。

4. 問題・課題、今後の対応

■ 厳しい財政状況による読書活動に関する予算の削減（自治体）

- ・ 文部科学省の委託事業に積極的に手をあげるなど、取組のために様々な事業などの委託などを受けようとしている。

■ 読書担当教師と学校図書館指導員の接触の少なさ（小学校、中学校）

- ・ 読書担当教師が学校の様々な仕事で多忙であるため、学校図書館指導員が打ち合わせや相談をする時間が少なく、先生あてのメモを置いて連絡をとることが多くなっている。

■ 中学校で読書に親しむ時間を確保するための方策を実施（中学校）

- ・ 中学生は、クラブ活動や受験勉強などで読書に親しむ時間を確保することが非常に難しくなっているため、（タイトルとあってないのでは？）小学生の時期に、読書活動を生活のリズムとして習慣付けるとともに、クラブ活動と融合した方策を行う。

■ 生徒自身の個人差（中学校）

- ・ 携帯小説などの電子書籍ばかりを読む子どもには他の本を読むように呼びかけたり、読書の集いで本を紹介したりしている。
- ・ 子どもの興味や関心、読書内容、読書量に合わせて、読みやすい種類の本を意識的に用意している。

■ 保護者に対する啓発不足（中学校）

- ・ P T Aの会議を図書室で開催し、保護者に図書室の様子を知ってもらえた。今後は保護者に対する啓発方法を検討していきたい。
また、『子どもの活字離れ』と同様に、『大人の活字離れ』に歯止めをかけるため、家庭の教育力の向上に努める。

■ 教師が多忙（中学校）

- ・ 教師が多忙であるため、学校図書館指導員が日常的な図書館における業務を補助している。

5. 委託事業終了後における自治体の取組の方向性

■ 町全体で取り組むための起爆剤としていく方向性（自治体）

- ・ 文部科学省の委託事業や補助事業に全力で取り組み、その成果を関係部署や地域の住民に示し、実感してもらうことで、町全体として読書活動に取り組む起爆剤としていく方向性を検討している。

2) 茨城県大子町

1. 力を入れている取組

■ 「読書のまち」宣言（平成19年6月）に関する取組（自治体）

- ・ 「読書のまち」宣言の5つの取組項目が基本である。
- ・ [保健センターで] ブックスタート / [保育所・幼稚園で] 読み聞かせ / [小中学校で] 朝読（あさどく） / [家庭で] 家読（うちどく＝家族みんなで好きな本を読み、読んだ本について話し合う運動のこと） / [町中で] 力をあわせて全力で取り組む。（「5つの柱」）
- ・ 「5つの柱」の推進のために教育委員会が主体となって、保健センター、保育所、幼稚園、学校、図書館、自治体などが組織的に取り組む。
- ・ 大子町の人材育成のためには、読書を通じての人づくりが大切だという町長の考えにより推進している。

■ 文部科学省の委託事業（平成19、20年度の2年間）の推進（自治体）

- ・ 委託事業のために推進委員会を組織し、地域も一体となって推進した。21年度以降は町が単独で新たに児童生徒読書活動推進委員会（委員数約25名）を結成した。

■ 家読（うちどく）推進校の指定による取組（小学校・中学校）

- ・ 家読推進校に指定されたことによる取組として、学級文庫に低、中、高学年用に30～40冊ずつ図書を充実させた。
- ・ 家読推進指定校として、図書委員会を中心に活動を充実させ、保護者に対する働きかけを強化した。

■ 「家読だより」の発行（小学校・中学校）

- ・ 新刊図書案内や300冊以上読んだ子どものインタビュー、お奨めする本の紹介、町の読書講演会に子どもが参加した様子、読み聞かせの様子、家読に関するアンケート結果などを記事にして保護者にも知らせるようにした。

■ 家読カード（小学校）

- ・ 各家庭の家読の目標、読んだ本に関する子どもの感想、家族のコメントを書いてもらう。

■ 家読推進校の指定による読書集会、読書講演会の実施（中学校）

- ・ 子どもによる読書活動の発表、県の読書感想文コンクールに入選した生徒の発表、図書委員による本の貸出調査の結果の発表、保育園で読み聞かせをしている生徒による活動を紹介した。

■ 朝の読書は毎朝10分間、担任の先生も必ず一緒に読書（中学校）

- ・ 中学1年生の時から登校後に、静かな状態で読書を開始する事が習慣化しており、継続することを第一としている。
- ・ 子どもだけでなく、先生も教室で一緒に読書をする事が特徴である。

■ 学校図書館整備を担当する臨時職員を雇用（自治体）

- ・ 各学校の図書館の整備のために、臨時職員を雇用している。2名で13校を分担し、1校あたり年間約13日間の勤務を行い、図書の実施した。
- ・ 本来なら各学校に専任司書を配置することが理想だが困難な状況であるため、それに準ずる役職として雇用している。図書室の整備、新刊受け入れ、配架などを担当しており、学校からは好評である。

2. 工夫していること**■ 読書活動の根本的な目標と取組**

- ・ 「読書のまち」宣言の大きな目標は子ども達が読書に親しみ、感性豊かに育つことで、将来の大きさを担っていけるような人材を育成することである。様々な課題を抱えて現代を生きる子どもたちが人間としてしっかり成長できることが目標である。
- ・ 宣言の背景には「それまで町には大人も読書をする習慣が根付いていなかった。そのため、子どもに読書を奨めるだけでなく、それを支える大人も読書に親しまなければならない。そうすれば、自然と子どもたちも読書に親しむようになるだろう。」ということがあげられる。このようなイメージで事業を進め、子どもたちのために保護者、家庭、地域を巻き込み、町全体で読書活動に取り組む体制づくりに注力した。

■ 図書館に家読コーナーの設置（図書館）

- ・ 図書館に家読コーナーを設置し、来館した子どもや保護者が本を探している場合にアドバイスをしている。

■ 朝の読書で読む本を前日に用意（小学校）

- ・ 小学校では、登校後、すぐに読書が始められるように、前日の下校前に、翌日に読む本を机の上に用意して下校するように取り組んでいる。

■ 学級文庫の本を充実（小学校）

- ・ 学校の図書室以外にクラスで自由に本が読めるように、学級文庫の本を充実させた。また、年度の途中で本を入れ替える工夫をしている。

■ 「家読だより」の紙面を工夫（小学校）

- ・ 大子町内の他校の家読だよりが回覧できる仕組み（配布及びホームページ掲載等）を取っているため、それらを参考に「家読だより」の紙面を工夫し、できるだけ多く発行するようにしている。

■ 家読カードのコメント内容を工夫（小学校）

- ・ 先生からの家読カードのコメント内容を工夫することで、子どもや保護者の読書に対する動機づけになるようにしている。

3. 取組の成果、子どもの変容、成功の要因

■ 自治体主導のコーディネートによる組織立った町ぐるみの取組（自治体）

- ・ 自治体が主体になることで、幼少期から小学生、中学生、高校生、さらに家庭まで巻き込んだ大きな流れを作ることができた。
- ・ 自治体、学校、図書館、幼稚園、保育所、保健センターによる連携体制が組織として位置づけられた。
- ・ 町長の発案による町ぐるみの取組であるため、教育委員会の読書活動を推進するための事務担当者が全体をコーディネートしていることが、人的、予算的な措置の充実につながり、事業がうまく機能している要因である。

■ 家読や朝の読書などの取組による子どもの読書に対する意識の向上

（自治体、小学校、中学校）

- ・ 朝の読書の時間に本を読んだり、休み時間に図書室に行ったり、家でも時間があれば本を読むことが当たり前の雰囲気が醸成されている。
- ・ 家読により家族を巻き込んだ形で読書に対する動機づけができています。

■ 読書活動の推進に取り組んだことによる保護者、学校の教師、地域住民等の読書に対する意識の変化（自治体）

- ・ 地域全体で読書活動の推進に取り組んだことで、本を読むことが自然なことになってくるといった意識の変化が見られた点で効果があった。
- ・ 学校の教師の理解が進み、読書ボランティアが受け入れられるようになった。

■ 委託事業の予算がその後の町単独の予算の指標化（自治体）

- ・ 委託事業1年目（1500万円）は、組織を作り、動かすなどの人的環境の整備に活用することができた。2年目の予算は650万円に縮小したが、その額であれば町の予算としても継続可能ということで委託事業終了後も町独自で予算化ができたため、読書関連の予算が措置された。

■ 聞くことの習慣化、語彙の増加、表現力、読解力の向上（小学校）

- ・ 集中して読むことにより、真剣に話を聞く習慣や語彙の増加の点で効果が見られた。
- ・ 読書感想文を書く際に読んだ本の内容や言葉を思い出して書くことから、表現力や読解力の向上につながっている。また、感想文について、助言を与えるうちに、具体的で詳しい感想文が書けるようになるといった質の向上も見られた。

4. 問題・課題、それに対する対応

■ 家庭における読書活動の格差（自治体）

- ・ それぞれの家庭環境に応じた丁寧な働きかけをしている。

■ 読書活動の推進に取り組んだことに対する成果の見えにくさ（自治体）

- ・ 読書活動の取組が始まった頃に小学校や幼稚園で取組に参加した子どもたちが中学生、成人に近づく頃まで時が経ないと、本当に読書の成果は出てこないだろう。そのくらいの気持ちでいないと頓挫してしまう。
- ・ 活動を地道に継続することで、結果的に子どもの読書に対する意識も変わっていくだろう。

■ 蔵書の充実（図書館）

- ・ 地域の図書館は図書の一部を県からの貸出で対応しているが、県からの新刊の貸出期間が1年間と決まっているため、図書を購入する予算が必要である。そのためには、利用者からの「本が欲しい」という要望が増えることが必要である。

■ 家読に対する保護者の意識の差、読書量の差（小学校）

- ・ 担任によっては家読を宿題にしたり、夏休みや冬休みの課題として保護者に家読カードを書いてもらうよう働きかけたりしている。
- ・ 保護者の了解を得て、家読カードの一部を見本として「家読だより」に掲載し、保護者の関心を引き起こすようにしている。

■ 発達段階に応じた本を読むよう働きかける難しさ（小学校）

- ・ 子どもの関心に応じて、どんな本が図書館にあるか周知することで、発達段階に応じた本を薦めるようにしている。
- ・ 本を選べない子どもに対しては、子どもの興味や関心を聞き出し、先生と一緒に選書するようにしている。

■ 家読に取り組む時間がない生徒や保護者の存在（中学校）

- ・ 保護者の来校時に読書活動の取組に対する協力を依頼したり、「家読だより」や「学年だより」で読書の効果を伝えたりしている。
- ・ 町全体として、広報誌や各種イベントにおいて「読書のまち」宣言を周知し、各家庭に浸透を図る必要がある。

■ 中学生を対象とした本の紹介が他の年齢層より少ない（中学校）

- ・ 「図書委員会お薦め10冊の本」などのように、学校として奨める本の紹介などを行うことも方法の一つである。

5. 委託事業終了後における自治体の取組の方向性**■ 平成21年度の取組**

- ・ 21年度は新しい組織を作り、町の予算で1年間事業を実施した。平成22年度は、前年度と同規模の予算が措置される見込みであり、同程度の事業に取り組める見通しである。
- ・ 最低限の必要な予算措置と自治体の中の各団体等をコーディネートする組織の構築や運営ノウハウがあれば、大子町のような規模の市町村でも継続可能である。

6. その他の意見

■ 文部科学省の読書活動を推進する事業の重要性（自治体）

- ・ 学力低下と言語力低下はイコールであり、現場レベルでも、もっと読書に力を入れる必要性を感じている。
- ・ 大子町の子どもは素直で落ち着いており取組を進める土壌はある。しかし、社会の変化により現在の日本の子どもの精神状態は不安定になってきており、ある程度の年齢になる前に、読書に力を入れ、言語力や感性等を育てていかなければならない。

■ 自治体の力だけでは解決が困難な問題（自治体）

- ・ 導く必要のある保護者や家庭に対して積極的に関われる仕組み、ケースに応じてフォローできる仕組みが必要である。

■ 地方における研修や講演会の開催（図書館）

- ・ 地方では読書活動に関する研修や講演会の機会が大都市に比べて少ないため、地方でも開催してもらいたい。

■ 子どもが身近に本に触れられる読書環境の整備が重要（学校）

- ・ 専門的な立場から選書アドバイスや本の紹介をしてくれる人の存在など、子どもが身近に本に触れられる読書環境の整備が重要である。

Ⅱ. 調査実施内容

第2章 子どもの読書活動に関する情報発信について

1. 「子ども読書の情報館」に関する評価

(1) 調査の概要

子どもの読書活動に関する情報発信について、情報の受け手の評価を把握することを目的に、文部科学省が子どもの読書活動を推進するために開設しているホームページ「子ども読書の情報館」に関するアンケート調査を実施した。

【調査期間】平成 22 年 1 月 21 日（木）～平成 22 年 3 月 8 日（月）

※ホームページアドレス：<http://www.kodomodokusyo.go.jp/index.html>

【対象者と回答状況】

■ 大人（上段：人、下段：％）

合計	男	女
237	33	204
100.0	13.9	86.1

■ 中学生・高校生（上段：人、下段：％）

合計	中学校 1 年生	中学校 2 年生	中学校 3 年生	高校 1 年生	高校 2 年生	高校 3 年生
11	0	3	6	0	1	1
100.0	0.0	27.3	54.5	0.0	9.1	9.1

■ 小学校 3 年生～6 年生（上段：人、下段：％）

合計	小学校 3 年生	小学校 4 年生	小学校 5 年生	小学校 6 年生
10	6	0	2	2
100.0	60.0	0.0	20.0	20.0

(2) 調査結果の概要

「子ども読書の情報館」について、認知経路、閲覧理由及び掲載情報に関して、大人の調査結果を中心にとりまとめた。

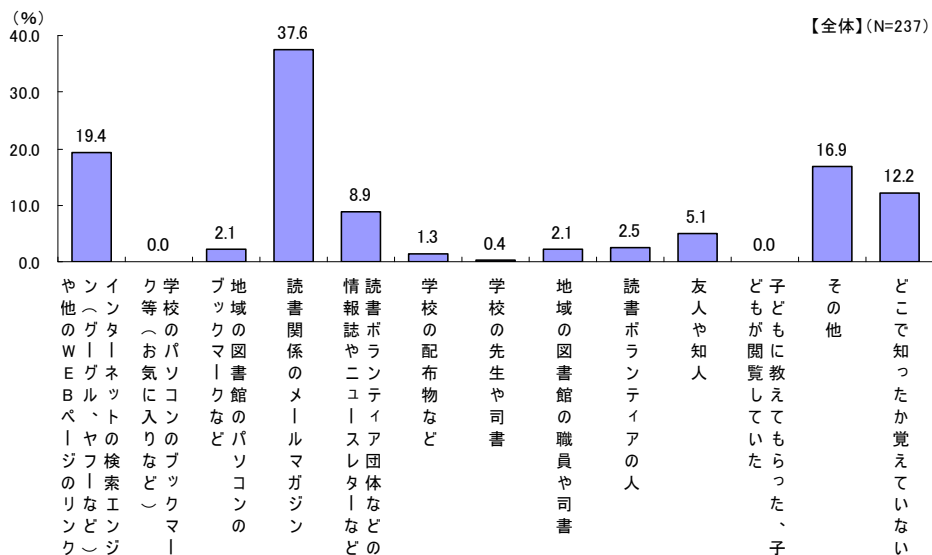
1) 「子ども読書の情報館」の認知経路と閲覧理由

① 認知経路

<大人>

認知経路は、「読書関係のメールマガジン」と回答した人が 37.6% となっており、最も多くなっている。

Q. あなたは、「子ども読書の情報館」をどこから知りましたか。



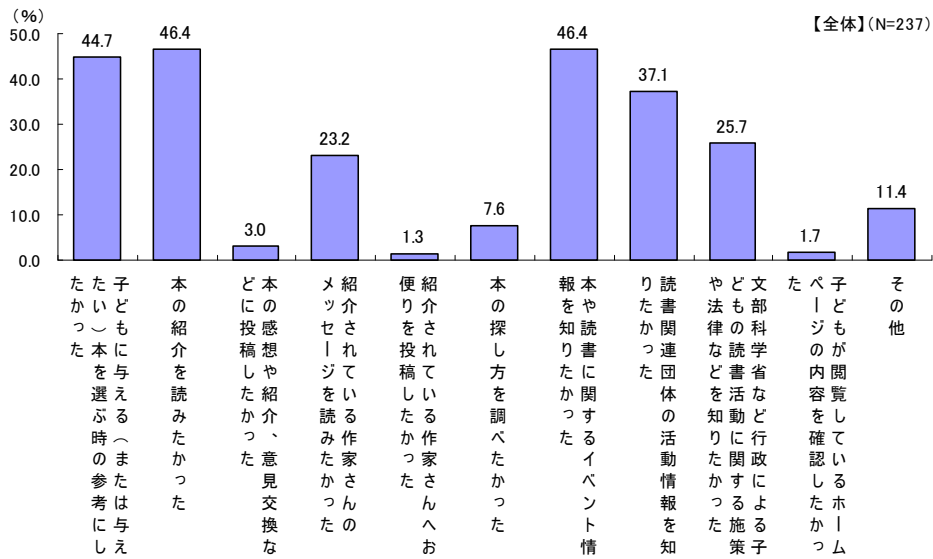
※小学3～6年生では「親や家族」が5人、中学生・高校生では「親や家族」が5人で最も多かった。

②閲覧理由

<大人>

閲覧理由は、「本の紹介を読みたかった」と「本や読書に関するイベント情報を知りたかった」と回答した人がいずれも 46.4%となっており、最も多くなっている。

Q. あなたが、「子ども読書の情報館」を閲覧した理由は何ですか。



<子ども>

小学校 3～6 年生

- ・ 読みたい本をさがしていた 4 人
- ・ 本のしょうかいを読みたかった..... 4 人
- ・ しょうかいされている作家さんのメッセージを読みたかった..... 1 人
- ・ 本のさがし方を知りたかった..... 2 人
- ・ 本や読書のイベント じょうほうを知りたかった 3 人
- ・ その他..... 3 人

中学生・高校生

- ・ 読む本を選ぶ時の参考に したかった 6 人
- ・ 本の紹介を読みたかった 8 人
- ・ 紹介されている作家さんの メッセージを読みたかった..... 3 人
- ・ 本の探し方を調べたかった..... 3 人
- ・ 本や読書に関するイベント 情報を知りたかった 1 人

2) 「子ども読書の情報館」の掲載情報

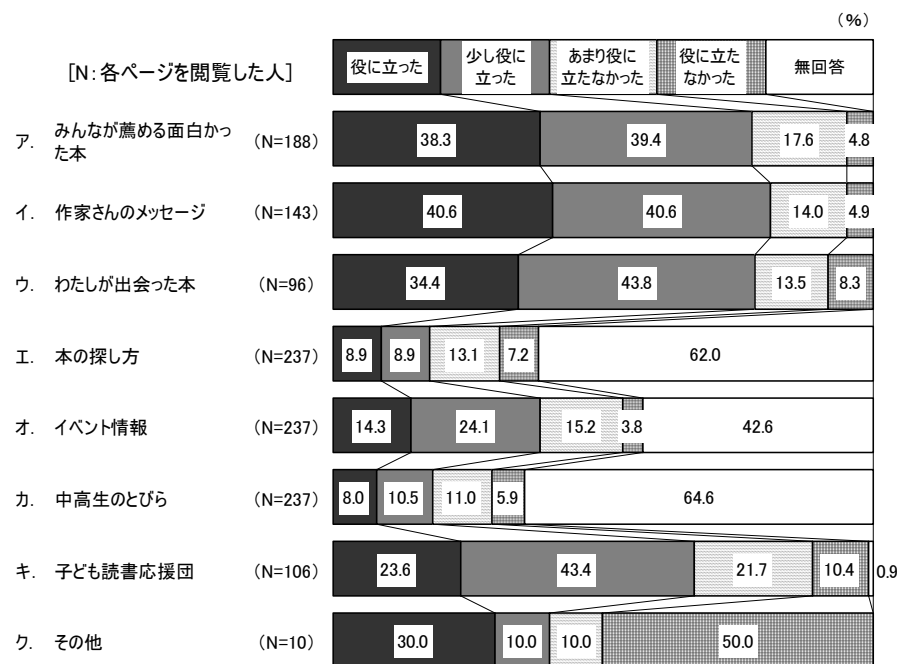
① 閲覧したページの役立ち度

<大人>

閲覧したページの役立ち度は、「みんなが薦める面白かった本」「作家さんのメッセージ」「わたしが出会った本」「子ども読書応援団」が「役に立った」「少し役に立った」と回答した人が6割を超えている。

Q. あなたは、「子ども読書の情報館」の中で、どのページを見ましたか。

Q. あなたが閲覧したページは、役に立ちましたか。あなたが閲覧したページについて教えてください。



②掲載情報の役立ち度

<大人>

掲載情報の役立ち度は、「子どもの読書活動の推進」「先生、保護者、読書ボランティアなどのための読書情報」が、「役に立つ」「少し役に立つ」と回答した人が7割程度となっている。

Q. あなたは、「子ども読書の情報館」が、次のことに役に立っていると思いますか。

(%)

	(N=237)	役に立つ	まあ役に立つ	あまり役に立たない	役に立たない
ア. 子どもの読書活動の推進		19.4	50.2	24.5	5.9
イ. 子どもの読書に対する興味・関心の向上		18.6	45.1	27.8	8.4
ウ. 先生、保護者、読書ボランティアなどのための読書情報		21.9	48.9	21.9	7.2

<子ども>

閲覧による読書に対する興味の変化

(人)

	N	興味を持つようになった	少し興味を持つようになった	どちらともいえない	あまり興味を持つようにならなかった	興味を持つようにならなかった
小学校3～6年生	10	4	5	1	0	0
中学生・高校生	11	6	5	0	0	0

閲覧した感想

(人)

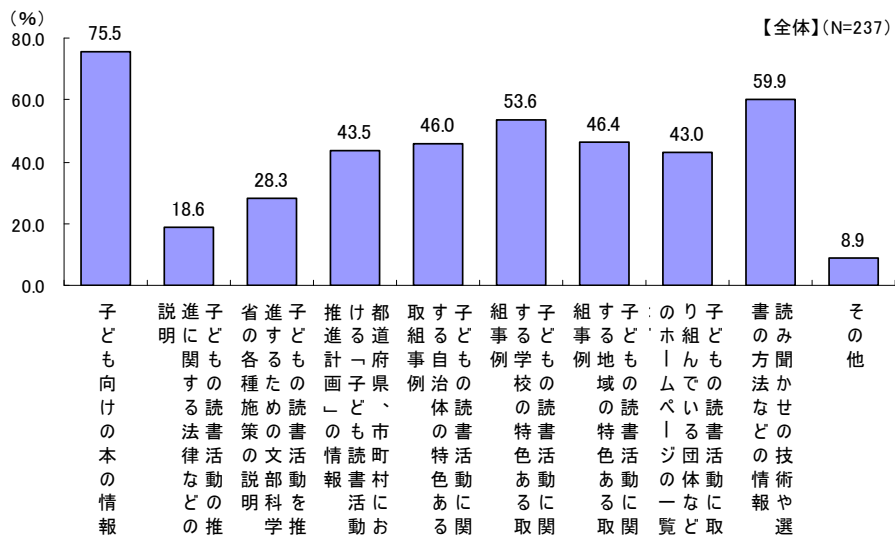
	N	紹介されている本を読みたくなった	紹介されていない本も読みたくなった	紹介されている作家さんに興味をもつようになった	読書のイベントに興味をもつようになった	図書館の利用の仕方や本の選び方などが分かるようになった	その他
小学校3～6年生	9	4	2	5	3	3	1
中学生・高校生	11	10	4	5	2	2	0

③入手したい情報

<大人>

入手したい情報は、「子ども向けの本の情報」と回答した人が75.5%となっており、最も多く、次いで「読み聞かせの技術や選書の方法などの情報」と回答した人が59.9%となっている。

Q. あなたは、「子ども読書の情報館」において、今後さらにどのような情報を充実させると良いと思いますか。



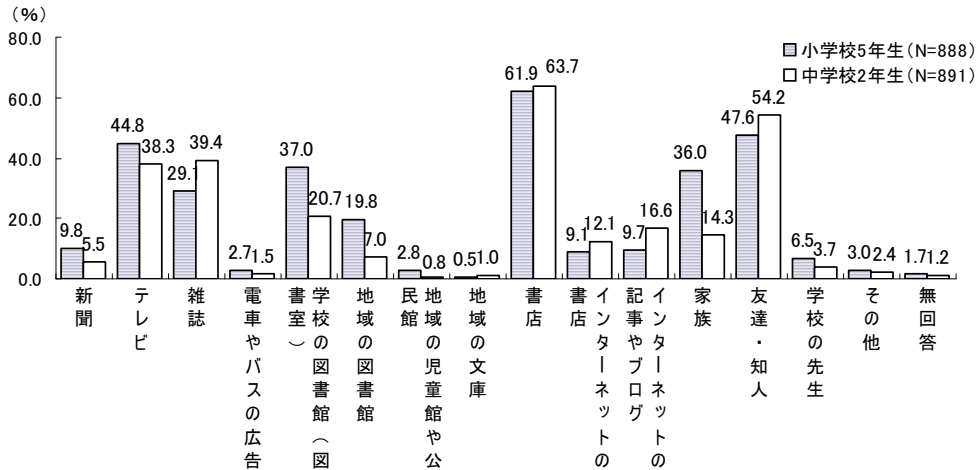
2. 子どもの読書活動に関する情報の入手状況

(1) 子どもの本に関する情報の入手先

<子ども>

子どもは、「書店」と回答した人が、小学校5年生で61.9%、中学校2年生で63.7%となっており、それぞれ最も高くなっている。

Q. あなたは本に関する情報をどんなところから知りますか。



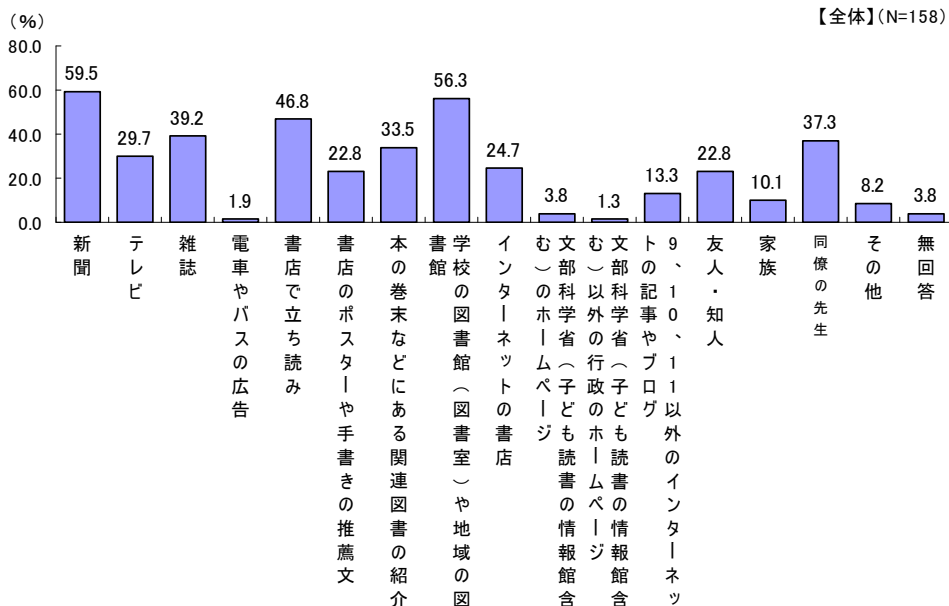
(「文部科学省による委託事業の受託自治体における取組参加者に対する調査」結果より)

<大人>

[学校の先生]

学校の先生は、「新聞」と回答した人が59.5%となっており、最も多く、次いで「学校の図書館(図書室)や地域の図書館」と回答した人が56.3%となっている。

Q. あなたは、子どもの本に関する情報をどのようなところから得ていますか。



(「文部科学省による委託事業の受託自治体における取組参加者に対する調査」結果より)

(2) 文部科学省の施策の認知と評価

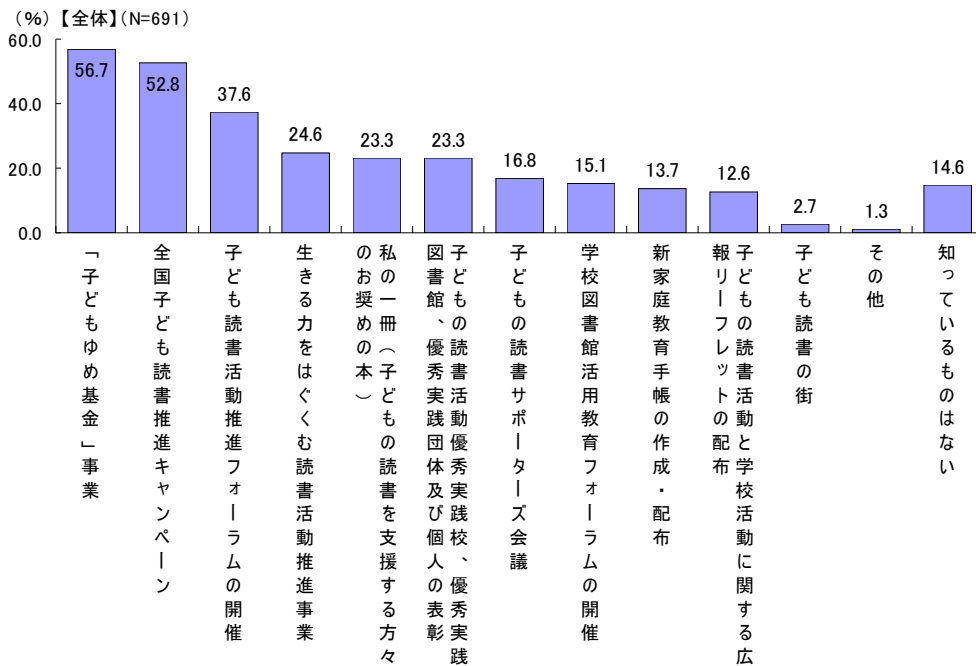
① 認知状況

<大人>

[読書ボランティア]

認知状況は、「子どもゆめ基金」事業と回答した人が56.7%となっており、最も多くなっている。

Q. 文部科学省では、「子どもの読書活動の推進」に関する取組として、「家庭、地域、学校における子どもの読書活動の推進」や「子どもの読書活動を推進するための諸条件の整備・充実」「関係者の連携した取組、啓発広報の推進」等の様々な施策を行っています。あなたは次の取組を知っていましたか。



(「読書ボランティア実態調査」結果より)

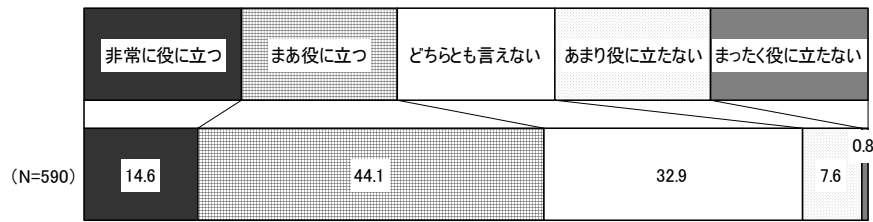
②評価

<大人>

[読書ボランティア]

①認知状況で文部科学省の取組を1つ以上知っていた人では、「非常に役に立つ」と回答した人が14.6%、「まあ役に立つ」と回答した人が44.1%となっており、両方を合わせると58.7%となっている。

Q. 文部科学省のこうした取組は、読書ボランティア活動を推進していく際に役にたつと思いますか。

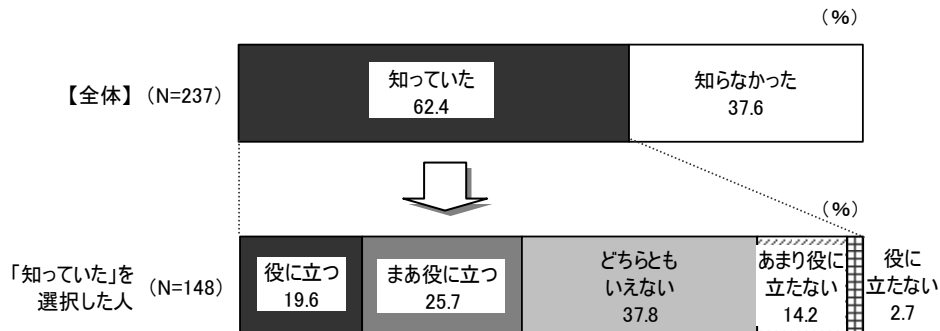


(「読書ボランティア実態調査」結果より)

文部科学省の施策を知っていた人は、62.4%となっており、そのうち「役に立つ」と回答した人が19.6%、「まあ役に立つ」と回答した人が25.7%となっており、両方を合わせると45.3%となっている。

Q. 文部科学省では、「子どもの読書活動の推進」に関する取組として、「家庭、地域、学校における子どもの読書活動の推進」や「子どもの読書活動を推進するための諸条件の整備・充実」「関係者の連携した取組、啓発広報の推進」等の様々な施策を行っています。あなたはそのことを知っていましたか。

Q. 文部科学省の取組は、子どもの読書活動を推進するために役に立っていると思いますか。



(「子ども読書の情報館」に関するアンケート調査結果より)

Ⅱ. 調査実施内容

第3章 読書ボランティアについて

1. 調査の概要

1-1. 読書ボランティア実態調査

子どもの読書活動を推進していくためには、学校や家庭の取組とともに、読書ボランティアの取組が重要となっていることから活動状況を定量的に把握することを目的に、インターネット調査を実施した。

【実施期間】

平成21年9月1日～11月30日

【調査対象者と回答状況】

読書ボランティア活動を行っている人 691人
(主に、学校、公立図書館、福祉施設、書店などにおいて読み聞かせやストーリーテリングなどの活動を行っている人)

【質問項目】

- ・ 読書ボランティア活動の実績
- ・ 読書ボランティアとなった理由・契機
- ・ 読書ボランティア活動の状況
- ・ 読書ボランティア活動の支援体制
- ・ 読書ボランティア活動の問題、課題
- ・ 読書ボランティア活動の効果
- ・ 子どもの読書活動を推進するための情報発信に関する認知、評価

1-2. 読書ボランティア団体からのヒヤリング調査

読書ボランティア団体に対して、読書ボランティア数の推移、活動の状況、活動の効果等に関する調査を実施した。このヒヤリング結果は、読書ボランティアを取り巻く状況の全体像を把握するとともに、「読書ボランティア実態調査」の調査設計に活用した。

【対象団体】

親子読書地域文庫全国連絡会
社団法人 読書推進運動協議会

【質問項目】

1. 団体の活動概況
2. 子どもの読書活動を推進するための取組、読書ボランティア活動をめぐる社会状況
 - (1) 読書グループ・団体数、読書ボランティアの推移
 - (2) 読書ボランティアグループの活動内容全般
 - (3) 関連機関と読書ボランティアグループのかかわり
 - (4) 読書ボランティア活動の問題・課題

2. 調査の結果

(1) 読書ボランティアをめぐる社会状況

■ 読書グループ数の推移

読書グループ総計	
調査年度	全国
1998年	9640
2003年	8692
2008年	8499

子どもの本						
調査年度	全体	読書会	研究会	実演G	文庫	連絡会
1998年	5859	-	578	2016	3178	87
2003年	5733	789	346	3088	1510	171
2008年	6267	651	452	4519	1143	237

(2008年『全国読書グループ総覧』の補足資料より)

- ・ 「全国読書グループ総覧」(2008年版)によると、1998年以降では、読書グループ総数は減少傾向にあるものの、子どもの本グループ数は増加傾向にある。その理由としては、子どもの本グループは、子どもが学校を卒業しても新しい保護者が参加するため、一般の本グループに比べて増加傾向にあるとともに、平均年齢が低い傾向にある。
- ・ 子どもの本グループの傾向は、読み聞かせ、紙芝居、人形劇などを行う「実演グループ」が1000グループずつ増加しているのに対し、「文庫」活動は減少傾向にある。

(読書ボランティア団体からのヒヤリング結果より)

(2) 読書ボランティアのプロフィール

■ 基本属性

基本属性は、女性が97.7%となっており、年齢は40代が51.1%で最も多くなっている。職業では、専業主婦が半数弱であり、3割がパート・アルバイトとなっている。

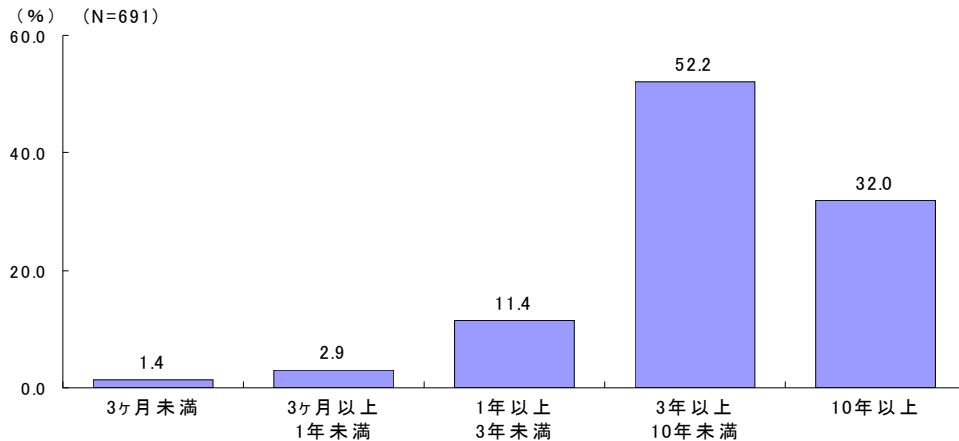
また、子どもを持つ人が約9割となっており、子どもの年齢期は、小学生の子どもを持つ人が約4割で、社会人の子どもを持つ人が約3割となっている。

(「読書ボランティア実態調査」結果より)

■ 活動年数

活動年数は、「3年以上10年未満」と回答した人が52.2%となっており、最も多くなっている。

Q. あなたの読書ボランティアの活動年数はどのくらいですか。活動を一時休止された場合は、通年でお答えください。



(「読書ボランティア実態調査」結果より)

■ 活動者の年齢傾向

- ・ 活動者の年齢傾向は時代によって違いが見られる。
- ・ 1971年に初めて発刊された『全国読書グループ総覧』の活動者の平均年齢は35歳となっており、活動内容は一般の本グループの「読書会」が中心であったが、現在は、平均年齢が50代で、活動内容は子どもの本グループの「実演グループ」となっている。また、一般の本グループの平均年齢は60代となっており、子どもの本グループの方が若い層となっている。

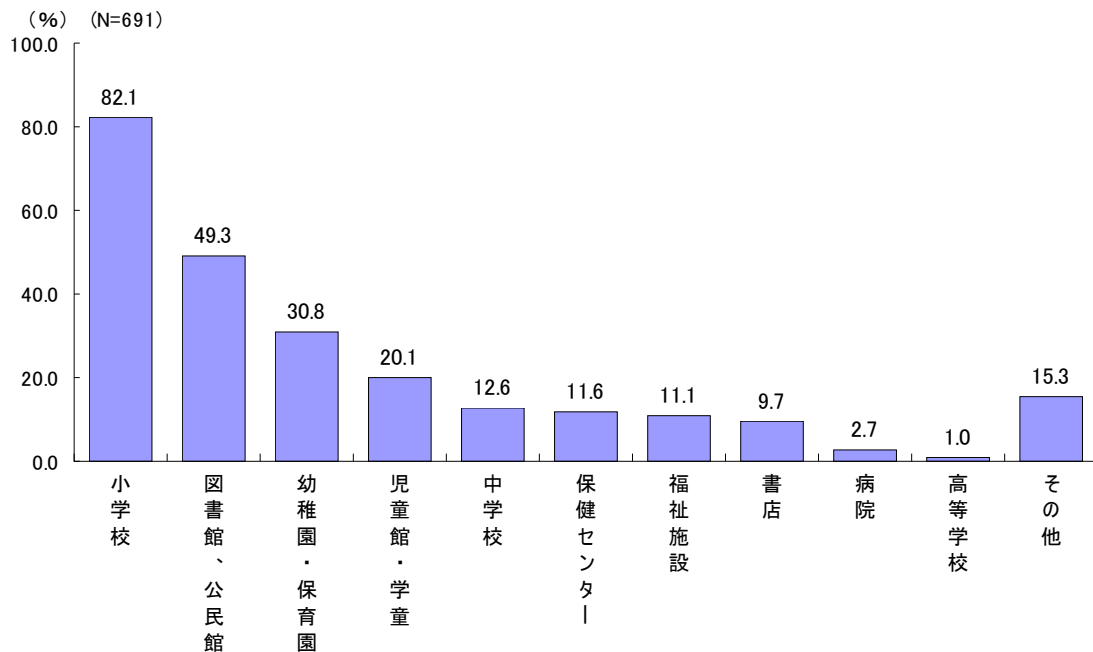
(読書ボランティア団体からのヒヤリング結果より)

(4) 読書ボランティア活動の状況

■ 活動場所

活動場所は、「小学校」と回答した人が 82.1% となっており、最も多くなっている。

Q. あなたが主に読書ボランティア活動を行っている場所と活動頻度について教えてください。
 複数の場所で活動している方は、それぞれについてお答えください。
 また、2 箇所以上の小学校で活動している場合などは、同じ場所における活動頻度を合計してお答えください。



(「読書ボランティア実態調査」結果より)

■ 主な対象

主な対象は、「小学校低学年」と回答した人が 91.3% となっており、最も多くなっている。

(N=606)

- ・ 乳児・未就園児（親子で参加） (31.5%)
- ・ 未就学児（幼稚園・保育園児） (42.6%)
- ・ 小学校低学年（1、2年生） (91.3%)
- ・ 小学校中学年（3、4年生） (81.5%)
- ・ 小学校高学年（5、6年生） (69.5%)
- ・ 中学生 (13.7%)
- ・ 高校生 (1.3%)
- ・ その他 (5.6%)

(「読書ボランティア実態調査」結果より)

■ 活動内容

活動内容は、「読み聞かせ・おはなし会の開催」と回答した人が 98.4% となっており、最も多くなっている。

(N=691)

- ・ 読み聞かせ・おはなし会の開催 (98.4%)
- ・ 本の紹介、本の読み方や選び方のアドバイス、ブックトーク (40.7%)
- ・ ストーリーテリング (27.4%)
- ・ 赤ちゃんと保護者を対象としたブックスタート (22.9%)
- ・ 対面朗読など障がいのある子どものための活動 (5.4%)
- ・ オリジナルの絵本づくり (3.9%)
- ・ その他 (12.4%)

(「読書ボランティア実態調査」結果より)

■ 読書グループの活動内容

<読書グループの活動内容>

子どもの本グループの活動内容は、「読み聞かせ」「紙芝居」「人形劇」など読書推進の実演を行う「実演グループ」と回答した人が 72.1% となっており、最も多くなっている。

<子どもの本グループの活動内容内訳>

活動内容	読書会	研究会	実演グループ	文庫	総数
グループ数	650	452 (349)	4,509 (3,088)	1,142	6254
割合	10.4%	7.2%	72.1%	18.3%	

(社団法人 読書推進運動協議会「2008年度読書グループ総覧」より)

※複数の活動内容を回答したグループもあるため、各活動グループ数の合計は「グループ総数」と一致しない。

(参考)

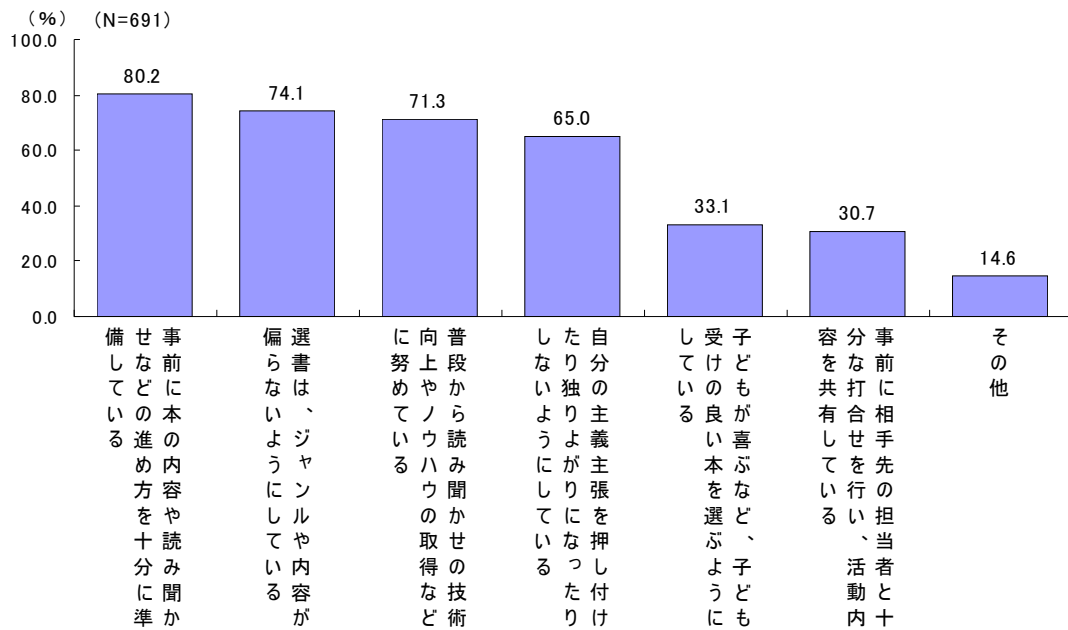
社団法人 読書推進運動協議会「全国読書グループ調査」では、「読書グループ」の主な活動内容を以下の5つに分類している。

- (a) 読書会 読書会および読書愛好会など読書を楽しむグループ
- (b) 研究会 テーマ(子どもの本、源氏物語など)を定め、研究活動をするグループ
- (c) 実演グループ 読み聞かせ、紙芝居、人形劇など読書推進の実演グループ
- (d) 文庫 家庭・地域文庫、図書の貸出などを行うミニ図書館など
- (e) 連絡会 グループ団体のネットワーク活動の連絡会・協議会など

■ 活動の留意点や工夫点

読書活動を行う際に気をつけたり、工夫したりしていることは、「事前に本の内容や読み聞かせなどの進め方を十分に準備している」と回答した人が 80.2%となっており、最も多くなっている。

Q. あなたは、読書ボランティア活動を行う際に気をつけたり、工夫したりしていることはありますか。

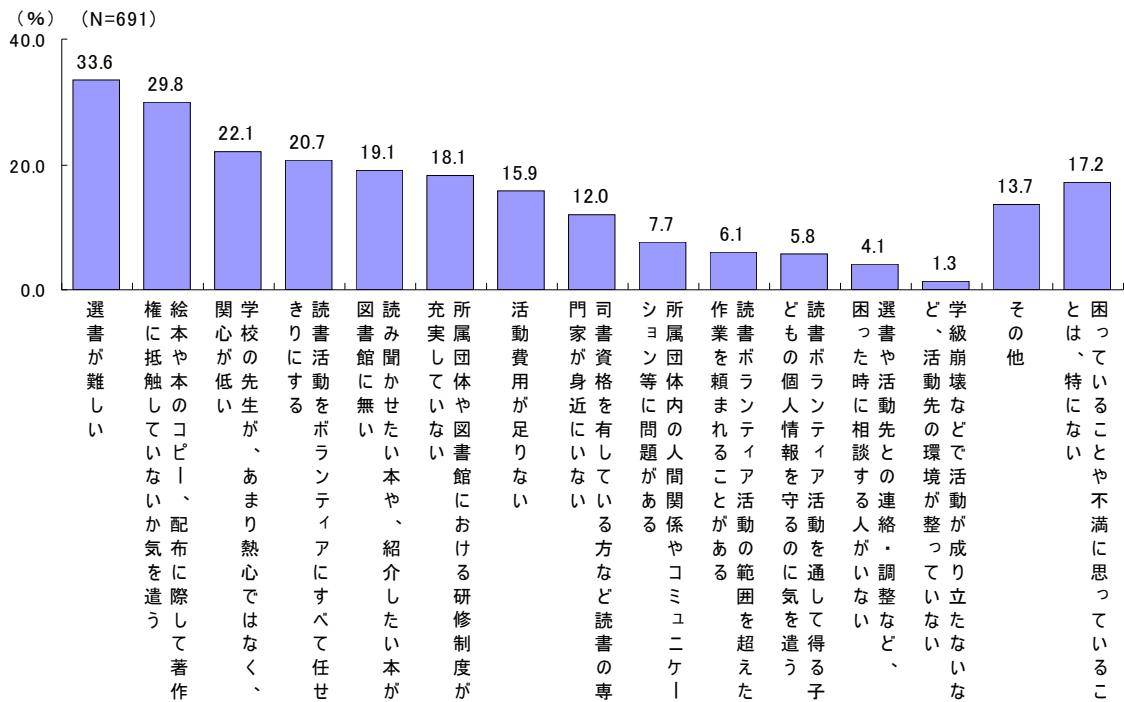


(「読書ボランティア実態調査」結果より)

(5) 読書ボランティア活動の問題・課題

読書活動の実施にあたり、困っている点や不満に思っている点は、「選書が難しい」と回答した人が33.6%となっており、最も多くなっている。

Q. あなたが読書ボランティア活動の実施にあたり、困っている点や不満に思っている点がありますか。



(「読書ボランティア実態調査」結果より)

■ 学校図書館、地域の図書館の蔵書の充実

- 読書ボランティアが活動の実施にあたり、公共図書館で借りた本を使うことが多い。しかし、希望する本が貸出中でなかったり、本の傷みが激しく使える状態ではなかったりすることがあり、プログラム作りに苦労している。そのため、学校図書館、公共図書館の蔵書の充実が望まれる。また、手持ちの本を用いることもある。

(読書ボランティア団体からのヒヤリング結果より)

■ 読書ボランティアと受け入れ先の連携の充実

- 学校において、おはなし会等のプログラムを計画する時に、学校側の司書や担当教諭と相談する時間を確保することができない場合があり、読書ボランティアだけで計画することがある。

(読書ボランティア団体からのヒヤリング結果より)

- 学校の先生が多忙であるため、読書ボランティアと学校の先生が打ち合わせ等を行う時間などを確保することができずに、読書ボランティアに任せっきりの場合がある。

(読書ボランティア団体からのヒヤリング結果より)

■ 読書ボランティアと受け入れ先の役割分担の明確化

- ・ 読書ボランティアと受け入れ先の役割分担が明確になっていない時があり苦勞するが、読書ボランティアの多くが「子どもの輝く目が私たちを呼んでいる」という使命感に突き動かされて活動している。
- ・ このままの状況が継続していくようであれば、活動が困難になる読書ボランティアの方が出てくる恐れがあるだろう。

(読書ボランティア団体からのヒヤリング結果より)

■ 読書ボランティアの良さを活かす中長期的な計画の構築

- ・ 地域の図書館は、図書館の専門職員以外にボランティアの方が読書活動に取り組んでいる場合があるが、ボランティアの立場では読書活動を推進していくための継続的な計画を立てることが困難である。そのため、図書館の専門職員の方により中長期的な計画が立てられ、ボランティアの良さを活かす計画の構築が望まれる。

(読書ボランティア団体からのヒヤリング結果より)

■ 読書ボランティアの不足

- ・ 近年、共働きの家庭が多くなってきているなど、昼間からボランティア活動ができる人材を確保することが困難となっている。

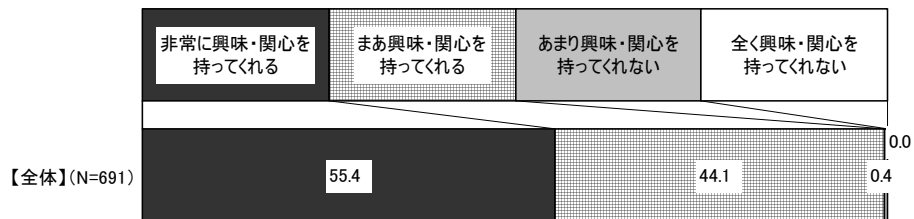
(読書ボランティア団体からのヒヤリング結果より)

(6) 読書ボランティア活動の成果

■ 子どもの反応

読書ボランティア活動を行った時の子どもの反応は、「非常に興味・関心を持ってくれる」と回答した人が 55.4%、「まあ興味・関心を持ってくれる」と回答した人が 44.1%となっており、両方を合わせると 99.5%となっている。

Q. あなたが読書ボランティア活動を行った際の平均的な子どもの反応はどうか。あなた個人の感想をお答えください。



■ 効果があったと思う時、良かったと感じること

読書活動を行って、効果があったと思う時は、「子どもが興味を示してくれた時」と回答した人が 93.6%となっており、最も多くなっている。

また、読書ボランティア自身が良かったと感じる時は、「活動先の子どもが喜んでくれた」と回答した人が 83.9%となっており、最も多くなっている。

N	子どもが興味を示してくれた時	子どもが喜んでくれた時	受け入れ先の学校の先生や担当者に喜ばれたり、感謝された時	保護者に喜ばれたり、感謝された時	その他
691	93.6	83.2	45.4	28.9	10.4

N	活動先の子どもが喜んでくれた	自分自身の知識が増えた	子どもとふれあう機会が増えた	活動を通して交流関係が広まった	活動の場が増えた	地域コミュニティに参画することができた	その他
691	83.9	74.7	60.6	57.2	30.8	21.3	12

Ⅲ. まとめ

Ⅲ. まとめ

第1章 調査結果に基づく評価・分析

1. 子どもの読書に対する態度の変容について

今回の調査結果から、子どもの読書に対する態度の変容は、家庭や地域など子どもの読書環境や読書活動を推進するための取組によって影響を受けていることが見受けられた。

ここでは、「第1章3. 文部科学省委託事業の受託自治体における取組参加者に対する調査」から地域の読書環境や読書活動を推進するための取組が子どもの態度の変容にどう影響し、どのような関係がみられるか検証した。

【検証の視点】

「第1章3. 文部科学省委託事業の受託自治体における取組参加者に対する調査」の結果から以下の2点について、子ども、学校の先生、保護者の調査結果を設問と設問のクロス集計分析により検証した。

1. 地域の読書環境と子どもの態度の変容の関係
2. 読書活動を推進するための取組と子どもの態度の変容の関係

(1) 地域の読書環境と子どもの態度の変容の検証

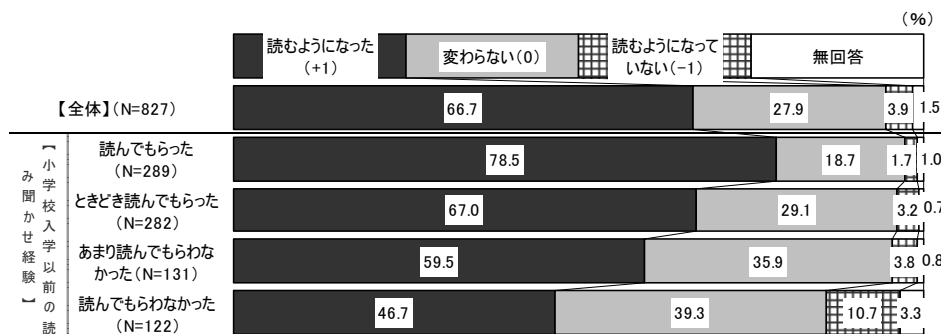
① 家庭における読み聞かせの有無と態度の変容の関係

<子ども>

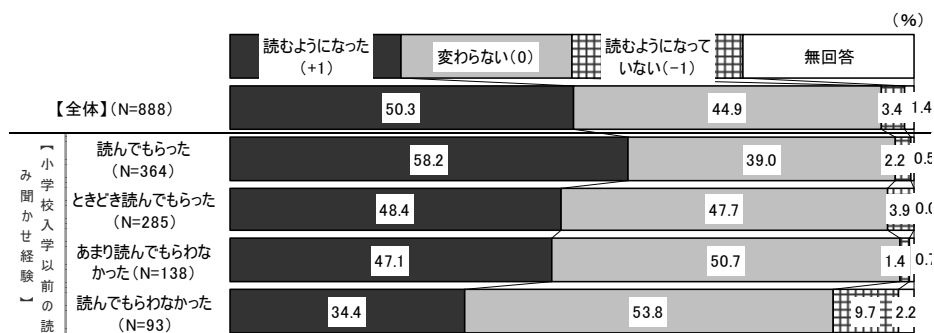
■ 本を読むようになったか

「小学校入学前に家庭における読み聞かせ」の経験がある子どもの方が「本を読むようになった」という子どもの態度の変容が見受けられた。また、学年が低いほど、影響が大きい結果となっている。

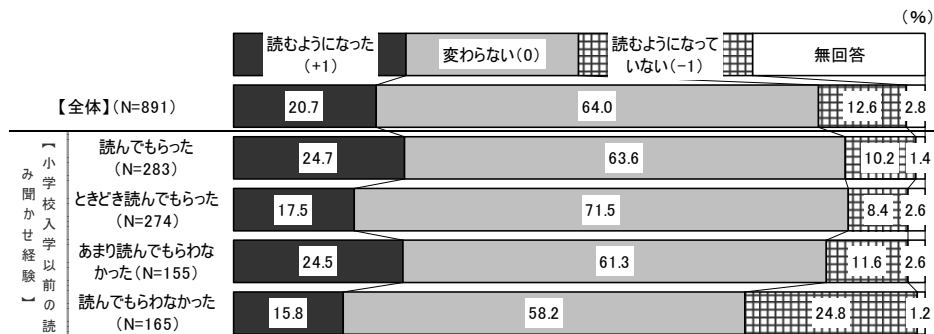
[小学校2年生]



[小学校5年生]



[中学校2年生]



<子ども>

■ 家庭における読み聞かせの有無と読書に対する興味・関心や能力の変容の関係

読み聞かせの有無と読書に対する興味・関心や能力の変容の関係では、「小学校入学前に本を読んでもらった」と回答した人は、興味・関心、能力の変容が高い結果となっている。

例えば、小学校2年生では、「本を読むことが好きになった」と回答した人が83.0%で全体平均の72.6%を10.4ポイント上回っている。これに対し、「あまり読んでもらわなかった」場合が67.2%で全体平均を5.4ポイント、「読んでもらわなかった」場合が54.1%で全体平均を18.5ポイント下回っている。

[小学校2年生]

	興味・関心				能力の変容					
	合計	本を読むことが好きになった	学校の図書館(図書室)や町の図書館に行くことが増えた	家の人や友達と本について話すようになった	本を読んだりドキドキしたりすることができた	学校の授業(勉強)が楽しくなった	今まで知らなかったことや言葉が分かった	その他	特に良かったことはない	無回答
【小学校入学以前の読み聞かせ経験】										
【全体】	827	72.6	35.4	28.1	53.9	41.8	55.5	4.1	5.7	1.6
読んでもらった	289	◎ 83.0	○ 44.3	◎ 39.8	○ 62.3	○ 50.5	○ 63.0	5.9	2.4	0.7
ときどき読んでもらった	282	72.7	34.8	24.5	55.0	38.3	54.6	2.5	4.3	0.4
あまり読んでもらわなかった	131	△ 67.2	32.8	24.4	56.5	39.7	△ 50.4	6.1	6.9	2.3
読んでもらわなかった	122	▲ 54.1	▲ 19.7	▲ 13.1	▲ 30.3	△ 32.8	△ 46.7	1.6	○ 15.6	4.1

： [比率の差] N=10以上
： ◎ : +10ポイント ○ : +5ポイント △ : -5ポイント ▲ : -10ポイント
：

※この設問は複数回答のため、全体、属性いずれもポイントの合計は100%にならない。

Ⅲ. まとめ

第1章 調査結果に基づく評価・分析

1. 子どもの読書に対する態度の変容について

また、小学校5年生は、47.0%、中学校2年生は、27.6%となっており、同様の傾向となっているが、「小学校入学前の読み聞かせの有無」が読書に対する態度の変容に与える影響は、学年が低いほど大きい結果となっている。

[小学校5年生・中学校2年生]

		興味・関心										能力の変容										
合計		本を読むことが好きになった	本を読むことが楽しくなった	本を読むことが習慣になった	何か調べる時に本を使うようになった	学校の図書館（図書室）や地域の図書館で本を借りることが増えた	本を買うことが増えた	家の人や友達と本について話すようになった	本を読んで感動することができた	想像力がついた	表現力がついた	思考力がついた	判断力がついた	人の話をよく聞けるようになった	学校の授業（勉強）が楽しくなった	授業を落ち着いて受けたり、いろいろなことに集中できるようになった	学校の成績が良くなった	新しい言葉や知識が身についた	その他	特に良かったことはない	無回答	
【小学校入学以前の読み聞かせ経験】																						
小学5年	【全体】	888	41.9	60.7	19.4	42.9	28.4	42.9	23.9	25.3	22.4	10.2	-	-	17.5	19.9	17.9	11.6	43.1	1.5	7.2	1.6
	読んでもらった	364	○ 47.0	64.0	23.1	46.7	32.7	45.9	○ 31.9	○ 33.0	○ 28.8	14.0	-	-	21.4	22.0	22.3	14.3	○ 48.1	1.4	5.8	1.1
	ときどき読んでもらった	285	38.6	62.1	19.6	47.0	27.0	43.5	19.6	△ 20.0	18.9	8.4	-	-	14.4	20.4	15.4	7.4	40.4	1.8	6.3	0.7
	あまり読んでもらわなかった	138	39.9	56.5	15.9	▲ 31.9	25.4	40.6	△ 18.1	△ 20.3	△ 17.4	6.5	-	-	15.2	15.2	15.2	13.8	39.1	0.7	8.7	0.0
	読んでもらわなかった	93	38.7	△ 54.8	△ 10.8	△ 34.4	△ 21.5	△ 36.6	△ 16.1	20.4	△ 17.2	7.5	-	-	16.1	18.3	14.0	11.8	41.9	2.2	○ 14.0	1.1
【小学校入学以前の読み聞かせ経験】																						
中学2年	【全体】	891	22.2	27.6	13.9	13.2	8.6	35.9	12.1	18.1	24.8	11.7	11.8	7.4	7.1	3.4	6.5	2.9	33.6	1.7	26.7	2.4
	読んでもらった	283	○ 27.6	○ 32.9	18.7	17.0	11.3	○ 41.3	17.0	○ 25.1	29.7	15.5	13.8	9.9	8.1	4.6	11.0	5.7	○ 40.6	2.1	△ 21.6	2.1
	ときどき読んでもらった	274	21.9	28.5	14.2	12.0	6.9	36.1	10.6	18.2	22.3	8.0	8.8	5.1	5.8	2.6	4.4	1.1	37.2	1.1	23.4	1.1
	あまり読んでもらわなかった	155	20.0	29.7	14.2	14.8	9.0	38.1	12.3	16.1	29.7	14.2	16.1	7.7	9.0	5.2	5.2	1.9	29.7	1.9	23.2	1.3
	読んでもらわなかった	165	△ 16.4	▲ 17.0	△ 5.5	8.5	7.3	△ 26.1	7.3	△ 9.1	△ 17.6	9.7	10.3	7.3	5.5	1.2	3.6	2.4	▲ 21.8	1.8	◎ 44.2	1.2

[比率の差] N=10以上
 ◎ : +10ポイント ○ : +5ポイント △ : -5ポイント ▲ : -10ポイント

※この設問は複数回答のため、全体、属性いずれもポイントの合計は100%にならない。

②読書ボランティアの取組の評価と態度の変容の関係

<学校の先生>

読書ボランティアの取組の評価と態度の変容の関係は、読書ボランティアの取組を「協力的である」と回答した人は、能力の変容の効果が高い結果となっている。

例えば、読書ボランティアの取組を「協力的である」と回答した人では、「想像力が豊かになった」が34.0%で、全体平均の25.3%を8.7ポイント上回っている。一方、「まあ協力的である」と回答した人では、「想像力が豊かになった」が17.4%で、全体平均を7.9ポイント下回っている。

その他には、読書ボランティアの取組を「協力的である」と回答した人で、「表現力が豊かになった」、「落ち着きや集中力がついた」について高い結果となっている。

能力の変容

	合計	な 感 受 性 が 豊 か に	な 想 像 力 が 豊 か に	な 表 現 力 が 豊 か に	思 考 力 が 高 ま っ た	判 断 力 が 高 ま っ た	聞 く 力 が つ い た	問 題 や 課 題 の 解 決	上 自 ら 学 ぶ 意 欲 が 向	が 落 ち 着 き や 集 中 力	学 力 が 向 上 し た	し た 語 彙 や 知 識 が 増 加	そ の 他	無 回 答	
【地域の読書ボランティアの取組の評価】															
【全体】	158	23.4	25.3	22.8	11.4	3.8	16.5	6.3	9.5	54.4	5.7	38.6	2.5	18.4	
協力的である	100	28.0	○ 34.0	○ 29.0	11.0	5.0	21.0	9.0	11.0	○ 60.0	7.0	43.0	1.0	△ 13.0	
まあ協力的である	23	26.1	△ 17.4	△ 13.0	8.7	0.0	13.0	4.3	8.7	△ 47.8	△ 0.0	39.1	4.3	21.7	

⋮ [比率の差] N=10以上
⋮ ◎ : +10ポイント ○ : +5ポイント △ : -5ポイント ▲ : -10ポイント
⋮

※この設問は複数回答のため、全体、属性いずれもポイントの合計は100%にならない。

<子ども>

町（地域）の図書館、児童館や公民館、文庫、書店（本屋）に、「本の読み聞かせや本について話してくれる大人の人がいる」と回答した人は、興味・関心、能力の変容が高い結果となっている。

例えば、小学校2年生では、児童館や公民館に、「本の読み聞かせや本について話してくれる大人の人がいる」と回答した人は、「本を読むことが好きになった」が82.8%で全体平均の72.6%を10.2ポイント上回っている。

また、小学校5年生は、53.7%、中学校2年生は、36.2%となっており、同様の傾向となっている。

[小学校2年生]

	興味・関心				能力の変容				特に良かったことはない	無回答
	合計	本を読むことが好きになった	学校の図書館(図書室)や町の図書館に行くことが増えた	家の人や友達と本について話すようになった	本を読んだりドキドキしたりすることができた	学校の授業(勉強)が楽しくなった	今まで知らなかったことや言葉が分かった	その他		
【本を読み聞かせてくれたり、本について話してくれたりする大人の存在】										
【全体】	827	72.6	35.4	28.1	53.9	41.8	55.5	4.1	5.7	1.6
学校	756	74.2	36.9	29.0	55.4	44.3	57.8	4.1	4.8	1.1
町の図書館	294	◎ 77.6	◎ 53.4	○ 35.7	◎ 64.6	○ 48.3	◎ 65.6	4.4	3.4	0.3
児童館や公民館	227	◎ 82.8	◎ 49.3	○ 37.9	○ 63.4	◎ 54.6	◎ 68.3	4.0	3.5	1.8
放課後児童クラブ(学童保育)	167	75.4	32.9	30.5	51.5	○ 49.1	○ 60.5	4.8	5.4	0.6
文庫	25	72.0	◎ 52.0	○ 36.0	◎ 76.0	◎ 52.0	◎ 68.0	8.0	◎ 16.0	0.0
本屋	68	◎ 80.9	◎ 58.8	◎ 42.6	◎ 70.6	◎ 57.4	◎ 66.2	2.9	8.8	0.0
その他	37	75.7	△ 27.0	○ 37.8	◎ 67.6	○ 48.6	○ 62.2	◎ 29.7	5.4	0.0

： [比率の差] N=10以上
◎ : +10ポイント ○ : +5ポイント △ : -5ポイント ▲ : -10ポイント

※この設問は複数回答のため、全体、属性いずれもポイントの合計は100%にならない。

Ⅲ. まとめ

第1章 調査結果に基づく評価・分析
1. 子どもの読書に対する態度の変容について

[小学校5年生・中学校2年生]

興味・関心

能力の変容

合計	本を読むことが好きになった	本を読むことが楽しくなった	本を読むことが習慣になった	何か調べる時に本を使うようになった	学校の図書館（図書室）や地域の図書館で本を借りることが増えた	本をかうことが増えた	家の人や友達と本について話すようになった	本を読んで感動することができた	想像力がついた	表現力がついた	思考力がついた	判断力がついた	人の話をよく聞けるようになった	学校の授業（勉強）が楽しくなった	授業を落ち着いて受けたり、いろいろなことに集中できるようになった	学校の成績が良くなった	新しい言葉や知識が身についた	その他	特に良かったことはない	無回答
	合計																			

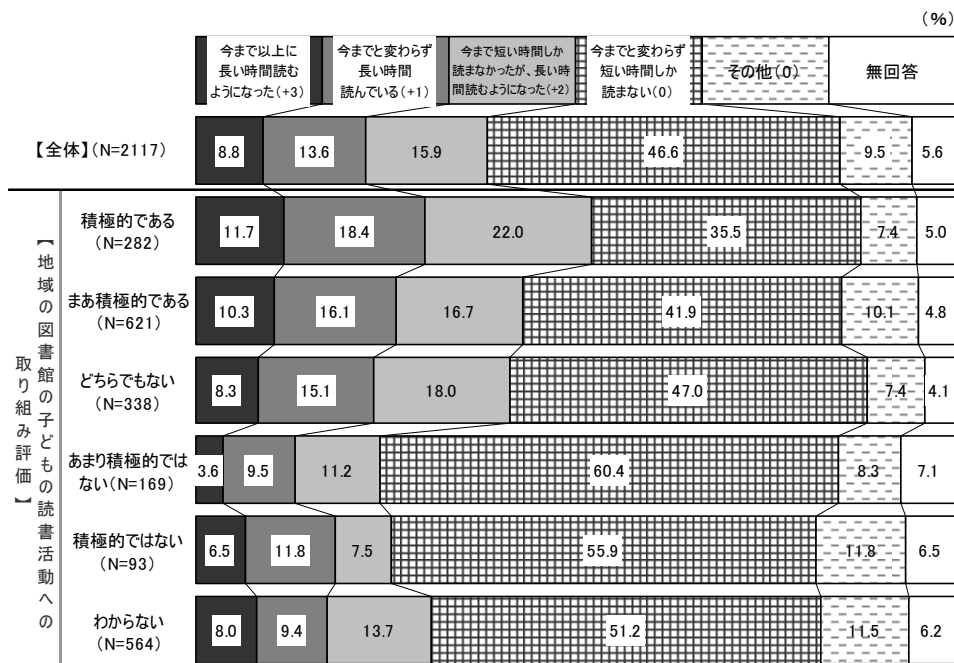
【本を読み聞かせてくれたり、本について話してくれたりする大人の存在】																						
小学5年	【全体】	888	41.9	60.7	19.4	42.9	28.4	42.9	23.9	25.3	22.4	10.2	-	-	17.5	19.9	17.9	11.6	43.1	1.5	7.2	1.6
	学校	744	45.2	63.6	19.9	45.2	30.4	44.8	25.9	27.2	24.3	11.0	-	-	19.2	21.5	19.2	12.5	44.8	1.6	6.0	0.5
	地域の図書館	220	◎ 53.2	○ 70.5	◎ 30.0	○ 50.5	◎ 44.5	○ 50.0	○ 32.7	29.5	◎ 35.0	○ 16.4	-	-	○ 24.5	○ 29.1	○ 23.6	15.5	◎ 58.2	1.8	4.1	0.5
	地域の児童館や公民館	41	◎ 53.7	58.5	◎ 31.7	◎ 58.5	◎ 41.5	39.0	◎ 36.6	○ 31.7	◎ 36.6	14.6	-	-	◎ 31.7	22.0	◎ 29.3	○ 19.5	◎ 53.7	2.4	2.4	2.4
	放課後児童クラブ(学童保育)	9	55.6	77.8	33.3	33.3	44.4	66.7	22.2	33.3	22.2	22.2	-	-	33.3	22.2	22.2	0.0	44.4	0.0	0.0	0.0
	地域の文庫	4	75.0	50.0	75.0	25.0	25.0	75.0	50.0	75.0	75.0	0.0	-	-	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0
	本屋	60	○ 50.0	○ 66.7	◎ 38.3	○ 50.0	○ 36.7	○ 48.3	25.0	23.3	○ 28.3	15.0	-	-	18.3	20.0	○ 23.3	○ 16.7	○ 48.3	3.3	△ 1.7	1.7
中学2年	【全体】	891	22.2	27.6	13.9	13.2	8.6	35.9	12.1	18.1	24.8	11.7	11.8	7.4	7.1	3.4	6.5	2.9	33.6	1.7	26.7	2.4
	学校	344	○ 28.8	○ 35.8	18.3	16.9	10.8	○ 42.2	○ 17.2	22.7	○ 29.9	13.7	12.5	8.7	8.7	4.9	7.8	2.9	○ 40.1	1.7	▲ 16.3	1.5
	地域の図書館	116	◎ 36.2	◎ 41.4	◎ 24.1	○ 21.6	○ 13.8	◎ 47.4	◎ 24.1	◎ 31.9	◎ 35.3	○ 17.2	15.5	10.3	8.6	3.4	9.5	3.4	◎ 53.4	0.9	▲ 7.8	1.7
	地域の児童館や公民館	47	◎ 36.2	◎ 42.6	◎ 25.5	○ 21.3	○ 17.0	◎ 51.1	◎ 25.5	○ 27.7	○ 34.0	10.6	○ 17.0	○ 14.9	○ 12.8	4.3	○ 12.8	6.4	◎ 46.8	2.1	▲ 8.5	2.1
	放課後児童クラブ(学童保育)	6	50.0	33.3	50.0	33.3	33.3	33.3	33.3	66.7	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	33.3	50.0	33.3	33.3	16.7	33.3	0.0
	地域の文庫	41	○ 29.3	◎ 39.0	◎ 26.8	◎ 24.4	○ 17.1	◎ 53.7	◎ 29.3	◎ 29.3	◎ 36.6	◎ 22.0	○ 19.5	○ 14.6	◎ 17.1	7.3	◎ 17.1	4.9	◎ 46.3	2.4	▲ 9.8	2.4
	書店	32	25.0	○ 34.4	15.6	9.4	○ 15.6	34.4	○ 18.8	15.6	○ 34.4	◎ 21.9	◎ 21.9	9.4	○ 12.5	6.3	○ 15.6	3.1	◎ 56.3	○ 9.4	25.0	0.0

【比率の差】 N=10以上
◎ : +10ポイント ○ : +5ポイント △ : -5ポイント ▲ : -10ポイント

※この設問は複数回答のため、全体、属性いずれもポイントの合計は100%にならない。

<保護者>

地域の図書館における子どもの読書活動の取組が「積極的である」と回答した人の子どもの方が、本を読む時間が長い傾向が見受けられた。



④自治体の取組の評価と態度変容の関係

<保護者>

自治体の取組が、「積極的である」と回答した人の子どもの方が、「以前に比べて読書が好きになった」、「以前に比べて読書に関心を持つようになった」と回答した割合が高くなっている。

興味・関心

	合計	好みに比べて読書が	以前に比べて読書に	以前に比べて読書に	以前に比べて読書に	以前に比べて読書に	以前に比べて読書に	以前に比べて読書に	以前に比べて読書に
【自治体の子どもの読書活動への取り組み評価】									
【全体】	2,117	12.7	15.6	6.8	18.1	26.8	20.2	13.9	
積極的である	186	○ 18.8	○ 21.5	7.5	16.1	26.3	17.2	12.9	
まあ積極的である	462	12.8	19.5	7.4	22.7	29.7	22.5	○ 19.3	
どちらでもない	375	13.3	15.7	8.5	21.3	30.9	21.3	14.7	
あまり積極的ではない	220	10.5	14.5	5.0	18.6	24.5	19.5	10.9	
積極的ではない	192	13.5	13.0	5.7	△ 10.9	△ 18.8	23.4	14.1	
わからない	656	11.1	12.8	6.4	16.3	26.4	18.1	11.1	

[比率の差] N=10 以上
◎ : +10ポイント ○ : +5ポイント △ : -5ポイント ▲ : -10ポイント

※この設問は複数回答のため、全体、属性いずれもポイントの合計は100%にならない。

(2) 読書活動を推進するための取組と態度変容の検証

①「調べ学習」の取組の評価と態度の変容の関係

<子ども>

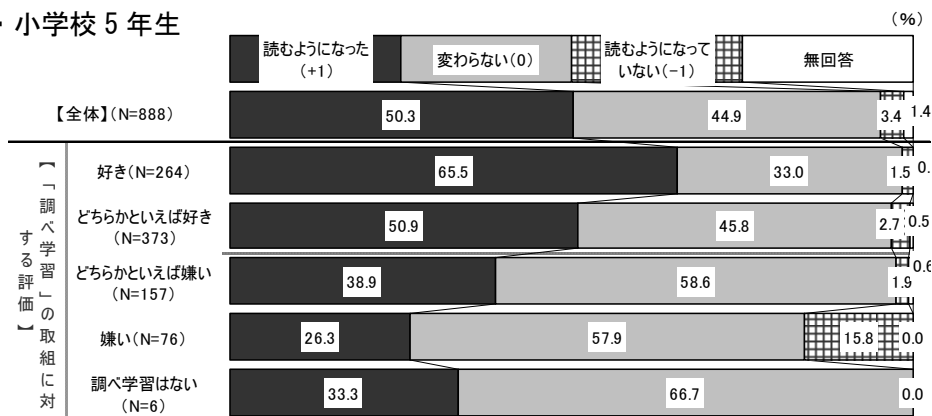
「調べ学習」が「好き」と回答した人は、「本を読むようになった」割合が高くなっており、態度の変容が高い結果となっている。

例えば、小学校5年生では、「調べ学習」が「好き」と回答した人は、「本を読むようになった」が65.5%で全体平均の50.3%を15.2ポイント上回っている。

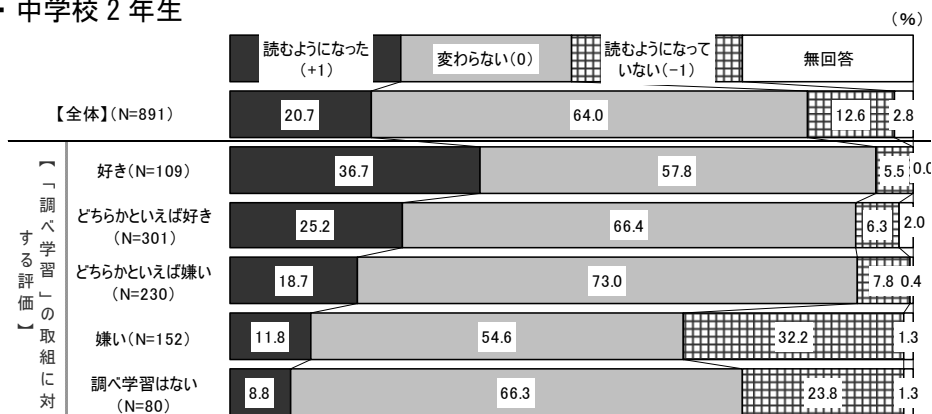
また、中学校2年生は、36.7%となっており、小学校5年生の方が、「調べ学習」が態度の変容に与える影響が大きいことが見受けられた。

[読むようになったかどうか]

・ 小学校5年生



・ 中学校2年生



<学校の先生>

「調べ学習」が「効果があった」と回答した人は、興味や関心との関係について態度の変容に効果があったと回答した割合が高くなっている。

特に、「調べものなどで本を使う子どもが増えた」については、全体平均の 24.7% を 12.6 ポイント上回っている。

興味・関心

	合計	心を前 に持つ 子ども も読書 が増え た	以前に 比べて 読書に 関心 が 増えた	読書に 関心 が 増えた	家庭に おける 読書の 習慣が 増えた	調べもの が増え た	調べる ための 本を使 う	学校図書 館の借 り	先生や 友達と 話さ ない	本を全 く読ま ない	その他	特 に な い	無 回 答
【調べ学習】													
【全体】	158	50.0	51.3	9.5	24.7	40.5	19.0	33.5	3.2	5.1	4.4		
効果があった	51	◎ 60.8	○ 56.9	11.8	◎ 37.3	○ 49.0	23.5	▲ 23.5	3.9	△ 0.0	3.9		
まあ効果があった	51	○ 56.9	○ 58.8	9.8	25.5	45.1	19.6	○ 43.1	3.9	2.0	2.0		
効果が(殆んど)なかった	2	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0		

能力の変容

	合計	か 感 に 受 け た 豊 か	か 像 に な った 豊 か	か 表 現 に な った 豊 か	ま 思 考 力 が 高 い	ま 判 断 力 が 高 い	い 聞 く 力 が 	が 高 い 問 題 	た 欲 が 上 る 意 義	自 ら 学 ぶ 意 義	集 中 力 が あ る	落 ち 着 き あ る	し た 学 力 が あ る	が 語 彙 が あ る	そ の 他	無 回 答
【調べ学習】																
【全体】	158	23.4	25.3	22.8	11.4	3.8	16.5	6.3	9.5	54.4	5.7	38.6	2.5	18.4		
効果があった	51	◎ 35.3	◎ 39.2	◎ 39.2	◎ 21.6	5.9	19.6	○ 11.8	7.8	58.8	7.8	◎ 56.9	2.0	△ 9.8		
まあ効果があった	51	23.5	27.5	21.6	7.8	3.9	15.7	5.9	○ 15.7	54.9	7.8	35.3	3.9	17.6		
効果が(殆んど)なかった	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0		

⋯ [比率の差] N=10 以上 ⋯
⋯ ◎ : +10 ポイント ○ : +5 ポイント △ : -5 ポイント ▲ : -10 ポイント ⋯

※この設問は複数回答のため、全体、属性いずれもポイントの合計は 100%にならない。

<保護者>

「調べ学習」が「効果があった」と回答した人は、興味や関心との関係について態度の変容に効果があったと回答した割合が高くなっている。

特に、「調べものなどで本を使うようになった」については、全体平均の18.1%を23.7ポイント上回っている。また、「まあ効果があった」と回答した人においても類似した傾向が見受けられた。

	興味・関心										能力の変容											
	以前に比べて読書が好きになった	以前に比べて読書に関心を持つようになった	以前に比べて家庭における読書習慣が身についた	調べものなどで本を使うようになった	学校の図書館（図書室）、地域の図書館で本を借りることが増えた	本を借りることが増えた	家庭で本の話をするが増えた	本を借りることが増えた	感受性が豊かになった	想像力が豊かになった	表現力が豊かになった	思考力が高まった	判断力が高まった	聞く力がついた	問題や課題の解決能力が高まった	自ら学ぶ意欲が向上した	落ち着きや集中力がついた	学力が向上した	語彙や知識が増加した	その他	特になし	無回答
合計	2,117	12.7	15.6	6.8	18.1	26.8	20.2	13.9	6.2	12.0	9.2	7.0	2.4	5.4	3.2	6.4	6.1	2.6	13.3	2.0	24.3	6.8
【調べ学習】																						
【全体】	2,117	12.7	15.6	6.8	18.1	26.8	20.2	13.9	6.2	12.0	9.2	7.0	2.4	5.4	3.2	6.4	6.1	2.6	13.3	2.0	24.3	6.8
効果があった	134	16.4	20.1	○ 11.9	◎ 41.8	○ 35.8	○ 26.1	◎ 28.4	10.4	16.4	○ 17.2	11.9	3.7	○ 11.2	6.0	○ 15.7	6.0	4.5	○ 22.4	5.2	▲ 10.4	△ 0.7
まあ効果があった	215	13.5	○ 20.9	7.9	◎ 37.2	○ 30.7	○ 26.5	○ 19.5	9.3	○ 17.7	12.1	10.7	4.2	○ 11.2	5.6	8.4	10.7	3.3	○ 20.0	3.7	▲ 13.0	2.3
効果が（殆んど）なかった	26	15.4	11.5	11.5	▲ 7.7	△ 19.2	23.1	15.4	7.7	11.5	11.5	△ 0.0	0.0	△ 0.0	0.0	△ 0.0	△ 0.0	3.8	△ 3.8	○ 7.7	◎ 38.5	△ 0.0
わからない	419	14.8	18.6	7.9	14.6	31.5	22.9	○ 19.6	6.0	11.9	9.8	5.7	3.1	4.8	3.3	7.4	6.7	2.1	13.6	1.7	26.3	1.9

.....
 [比率の差] N=10 以上

 ◎ : +10ポイント ○ : +5ポイント △ : -5ポイント ▲ : -10ポイント

※この設問は複数回答のため、全体、属性いずれもポイントの合計は100%にならない。

②「読書の時間」の取組に対する評価と態度の変容の関係

<子ども>

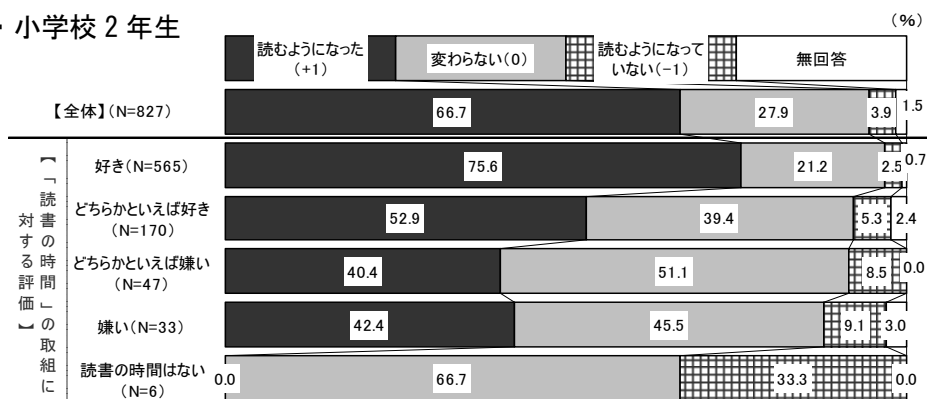
「読書の時間」が「好き」と回答した人は、「本を読むようになった」割合が高くなっており、態度の変容が高い結果となっている。

例えば、小学校2年生では、「読書の時間」が「好き」と回答した人は、「本を読むようになった」が75.6%で全体平均の66.7%を8.9ポイント上回っている。

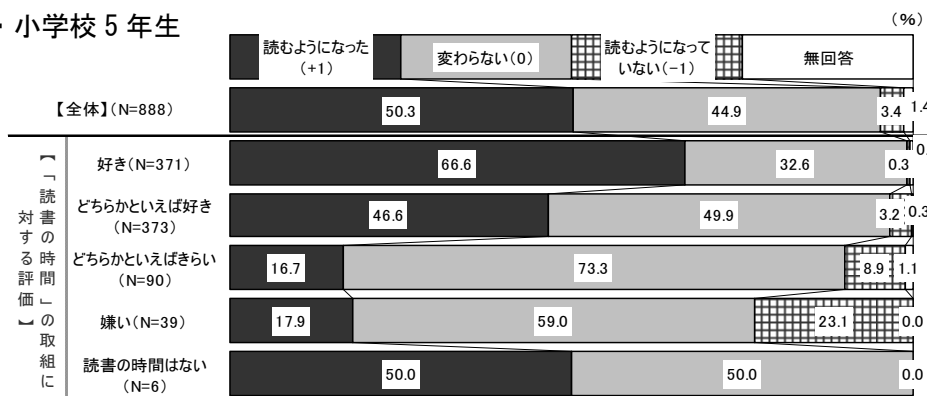
また、小学校5年生は、66.6%、中学校2年生は、44.2%となっており、低学年ほど「読書の時間」が態度の変容に与える影響が大きい結果となっている。

[読むようになったかどうか]

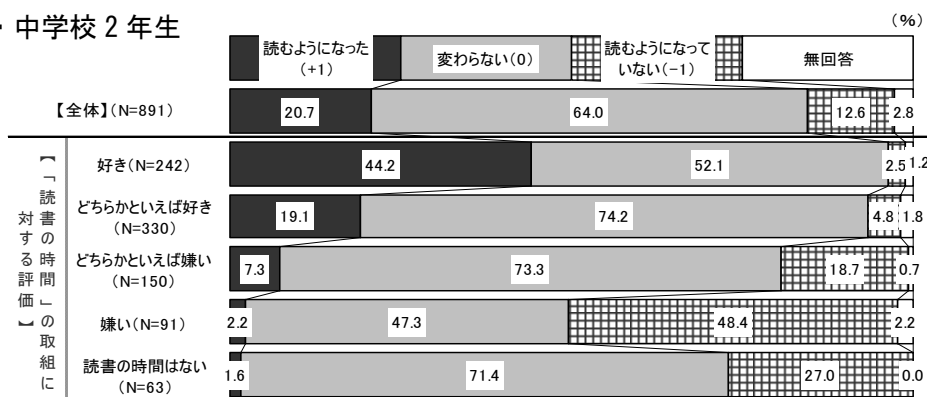
・小学校2年生



・小学校5年生



・中学校2年生



<学校の先生>

「読書の時間」が「効果があった」と回答した人は、興味や関心との関係について態度の変容に効果があったと回答した割合が高くなっている。

興味・関心

	合計	心を 持つ 子ど もが 増え 関	以前 に比 べて 読書 に関	以外 に自 ら本 を組 む時 間	読書 活動 の取 組を 読む 子	が増 えた	家庭 にお ける 読書 の習	調べ るも のな どで 本を 使	や学 校図 書館 (図書 室)	先生 や友 達が 増え た	本を 全く 読ま ない 子ど	その他	特 に な い	無 回 答	
【朝の読書や読書の時間などの全校読書】															
【全体】	158	50.0	51.3	9.5	24.7	40.5	19.0	33.5	3.2	5.1	4.4				
効果があった	96	○ 57.3	55.2	12.5	○ 30.2	○ 49.0	○ 25.0	33.3	4.2	4.2	2.1				
まあ効果があった	39	△ 41.0	△ 46.2	5.1	△ 15.4	▲ 25.6	△ 12.8	◎ 46.2	2.6	5.1	2.6				
効果が(殆んど)なかった	1	100.0	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0				

能力の変容

	合計	か感 に受 性が 豊	か想 に像 力が 豊	か表 に現 力が 豊	ま思 考力 が高	ま判 断力 が高	い聞 いた 力が 高	が問 題解 決能 力高	た欲 が向 学意	自 ら学 ぶ意	集 中力 がき	落 ち着 き	し学 力が 向上	が語 彙や 知識	その他	無 回 答
【朝の読書や読書の時間などの全校読書】																
【全体】	158	23.4	25.3	22.8	11.4	3.8	16.5	6.3	9.5	54.4	5.7	38.6	2.5	18.4		
効果があった	96	○ 27.1	○ 33.3	○ 28.1	15.6	4.2	19.8	7.3	11.5	◎ 67.7	6.3	41.7	2.1	△ 10.4		
まあ効果があった	39	△ 17.9	△ 17.9	17.9	7.7	0.0	15.4	5.1	10.3	▲ 41.0	5.1	35.9	2.6	23.1		
効果が(殆んど)なかった	1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0		

 [比率の差] N=10 以上

 ◎ : +10ポイント ○ : +5ポイント △ : -5ポイント ▲ : -10ポイント

※この設問は複数回答のため、全体、属性いずれもポイントの合計は100%にならない。

<保護者>

「読書の時間」が「効果があった」と回答した人は、興味や関心との関係について態度の変容に効果があったと回答した割合が高くなっている。

特に「本を買うことが増えた」「家庭で本の話をするが増えた」について全体的平均を10ポイント以上上回っている。

	興味・関心										能力の変容												
	以前に比べて読書が好きになった	以前に比べて読書に関心を持つようになった	以前に比べて家庭における読書習慣が身についた	調べものなどで本を使うようになった	学校の図書館(図書室)、地域図書館で本を借りることが増えた	本を買うことが増えた	家庭で本の話をするが増えた	感受性が豊かになった	想像力が豊かになった	表現力が豊かになった	思考力が高まった	判断力が高まった	聞く力がついた	問題や課題の解決能力が高まった	自ら学ぶ意欲が向上した	落ち着きや集中力がついた	学力が向上した	語彙や知識が増加した	その他	特になし	無回答		
合計	2,117	12.7	15.6	6.8	18.1	26.8	20.2	13.9	6.2	12.0	9.2	7.0	2.4	5.4	3.2	6.4	6.1	2.6	13.3	2.0	24.3	6.8	
【朝の読書や読書の時間などの全校読書】																							
【全体】	2,117	12.7	15.6	6.8	18.1	26.8	20.2	13.9	6.2	12.0	9.2	7.0	2.4	5.4	3.2	6.4	6.1	2.6	13.3	2.0	24.3	6.8	
効果があった	403	○ 21.8	○ 24.3	○ 14.4	21.3	○ 36.2	◎ 32.3	◎ 29.3	10.9	○ 19.6	○ 14.9	9.2	4.2	8.2	4.5	○ 12.2	10.7	3.7	○ 22.3	3.0	▲ 9.9	△ 0.7	
まあ効果があった	463	13.8	○ 22.0	6.0	○ 26.8	○ 32.8	24.0	17.5	7.3	14.0	11.7	10.4	3.2	6.9	5.2	6.3	9.3	3.2	○ 19.4	1.9	▲ 13.6	2.2	
効果が(殆んど)なかった	59	△ 3.4	△ 6.8	△ 1.7	△ 8.5	▲ 3.4	△ 13.6	10.2	△ 0.0	△ 5.1	△ 3.4	3.4	0.0	△ 0.0	1.7	1.7	1.7	1.7	11.9	○ 8.5	◎ 57.6	3.4	
わからない	431	8.8	△ 10.2	4.6	13.5	24.4	16.2	11.4	3.9	△ 7.0	6.5	4.9	2.1	4.9	2.8	4.9	3.5	2.3	8.4	2.3	◎ 38.3	2.8	

--- [比率の差] N=10以上 ---
 --- ◎ : +10ポイント ○ : +5ポイント △ : -5ポイント ▲ : -10ポイント ---

※この設問は複数回答のため、全体、属性いずれもポイントの合計は100%にならない。

③「読み聞かせ」の取組に対する評価と態度変容の関係

<子ども>

「読み聞かせ」が「好き」と回答した人は、「本を読むようになった」割合が高くなっており、態度の変容が高い結果となっている。

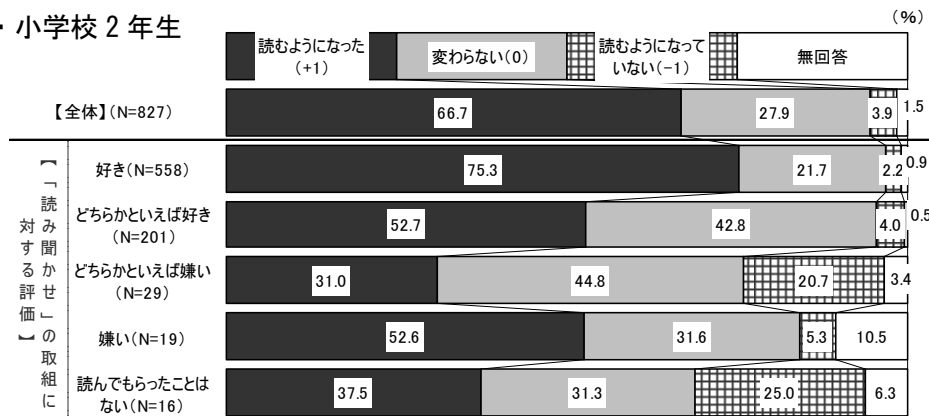
例えば、小学校2年生では、「読み聞かせ」が「好き」と回答した人は、「本を読むようになった」が75.3%で全体平均の66.7%を8.6ポイント上回っている。

また、小学校5年生は、70.1%、中学校2年生は、46.3%となっており、低学年ほど「読み聞かせ」が態度の変容に与える影響が大きいことが見受けられた。

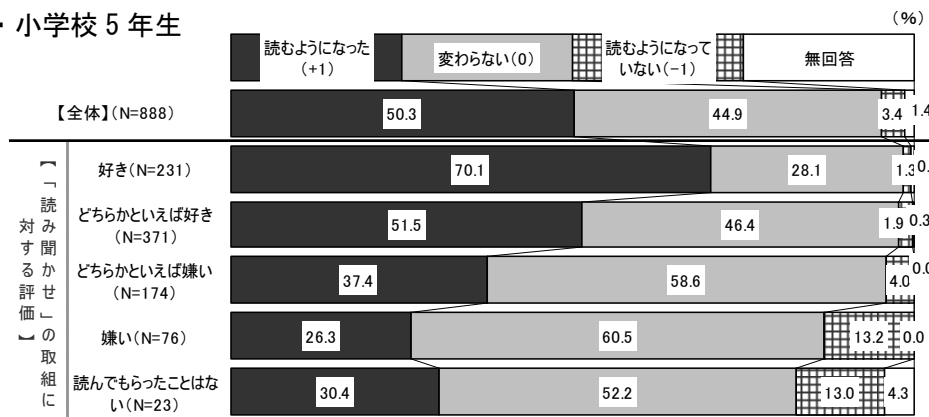
※小学校2年生では、「どちらかといえば好き」な場合で「読むようになった」が52.7%であり、「嫌い」な場合ではサンプル数が19であるため、あくまで参考値ではあるが、「読むようになった」が52.6%となっており、両者の結果が同水準である点が特徴的である。

[読むようになったかどうか]

・小学校2年生



・小学校5年生



<保護者>

「読み聞かせ」が「効果があった」と回答した人は、興味や関心との関係について態度の変容に効果があったと回答した割合が高くなっている。

合計	興味・関心										能力の変容											
	以前に比べて読書が好きになった	以前になかった	以前に比べて読書に関心を持つようになった	以前に比べて家庭における読書習慣が身についた	調べものなどで本を使うようになった	学校の図書館（図書室）、地域の図書館で本を借りることが増えた	本の買うことが増えた	家庭で本の話をすることが増えた	感受性が豊かになった	想像力が豊かになった	表現力が豊かになった	思考力が高まった	判断力が高まった	聞く力がついた	問題や課題の解決能力が高まった	自ら学ぶ意欲が向上した	落ち着きや集中力がついた	学力が向上した	語彙や知識が増加した	その他	特にない	無回答
【「読書ボランティアなどによる読み聞かせやブックトーク」】																						
【全体】	2,117	12.7	15.6	6.8	18.1	26.8	20.2	13.9	6.2	12.0	9.2	7.0	2.4	5.4	3.2	6.4	6.1	2.6	13.3	2.0	24.3	6.8
効果があった	251	◎ 23.1	○ 22.7	○ 15.5	◎ 29.1	◎ 41.0	24.3	◎ 27.5	10.4	○ 21.5	○ 16.3	10.8	4.4	○ 11.6	5.6	○ 12.0	○ 11.2	2.4	○ 23.1	4.8	▲ 10.0	2.4
まあ効果があった	287	12.5	○ 22.3	7.3	○ 26.8	○ 33.4	24.4	○ 22.3	7.0	15.3	11.1	11.5	2.4	6.3	4.9	5.9	9.4	3.1	○ 21.3	1.7	▲ 12.2	3.5
効果が（殆んど）なかった	52	△ 7.7	11.5	3.8	○ 23.1	▲ 11.5	17.3	△ 5.8	1.9	9.6	△ 1.9	3.8	1.9	1.9	1.9	3.8	1.9	3.8	11.5	○ 7.7	◎ 34.6	3.8
わからない	498	13.3	15.7	6.4	17.7	26.1	21.7	15.9	6.0	11.2	9.8	6.2	2.4	4.6	3.0	6.2	4.8	3.2	13.7	2.0	○ 29.7	△ 1.8

〔比率の差〕 N=10以上
◎ : +10ポイント ○ : +5ポイント △ : -5ポイント ▲ : -10ポイント

※この設問は複数回答のため、全体、属性いずれもポイントの合計は100%にならない。

2. 調査結果のまとめ

(1) 子どもの読書活動を推進するための取組状況とその効果

① 学校の取組

【学校における取組】

「調べ学習などによる読書活動」（以下、「調べ学習」という）、「朝の読書や読書の時間などの全校一斉読書」（以下、「読書の時間」という）、「読書ボランティアなどによる読み聞かせやブックトーク」（以下、「読み聞かせ」という）の3つの取組に関して、子ども、先生、保護者を対象としたアンケート調査において、それぞれの取組の評価と態度の変容の関係を検証したところ、いずれの取組においても評価及び態度の変容が高い結果となっている。

各取組の特徴及び効果は次のとおりである。

「調べ学習などによる読書活動」

子どもの評価では、「調べ学習」の取組を「好きだ」と評価している人は、「読書の時間」や「読み聞かせ」の取組を「好きだ」と評価している人に比べると、以前に比べて「本を読むようになった」割合が低くなっている。

「調べ学習」が好きな理由としては、「調べるのが楽しい、おもしろい」点や、「色々なことが分かる」点をあげる子どもが多く見受けられた。

学校の先生の評価では、「語彙や知識が増加した」点で、「調べ学習」は「読書の時間」や「読み聞かせ」よりも態度の変容の効果について高く評価されている。

（文部科学省による委託事業の受託自治体における取組参加者に対するアンケート調査結果、ヒヤリング調査結果より）

「朝の読書や読書の時間などの全校一斉読書」

子どもの評価では、取組が「好きだ」と評価した人は、以前に比べて「本を読むようになった」割合が高くなっており、低学年になるほど、その傾向が高くなっていることから、「読書の時間」は、いずれの学年においても有効であり、特に低学年では態度の変容に与える影響が大きいことが見受けられた。

学校の先生の評価では、「落ち着きや集中力がついた」点や、「本を全く読まない子どもが減った」点をあげる割合が高くなっている。

なお、子どもの意見の中には、「好きな本や読みたい本が読める」点のほかに、「集中して本が読める」点、「静かに本が読める」点が好きな理由としてあげていることから、効果がある取組と考えられる。

（文部科学省による委託事業の受託自治体における取組参加者に対するアンケート調査結果、ヒヤリング調査結果より）

「読書ボランティアなどによる読み聞かせやブックトーク」

子どもの評価では、取組が「好きだ」と評価した人は、以前に比べて「本を読むよ

うになった」割合が高くなっており、態度の変容に与える影響が大きいことが見受けられた。

学校の先生の評価では、「読書活動の取組の時間以外に自ら本を読む子どもが増えた」点や、「本を全く読まない子どもが減った」点をあげる割合が高くなっており、読み聞かせやブックトークを契機に、子どもの本に対する興味や関心が高まっていることが見受けられた。

なお、ヒヤリングの結果では、小学生だけでなく中学生においても読み聞かせやブックトークによって子どもが本に対する興味・関心の高まりを実感したといった意見をあげていることから、読み聞かせやブックトークは、子どもの年齢に関係なく、本に対する興味・関心を喚起する効果がある取組と考えられる。

(文部科学省による委託事業の受託自治体における取組参加者に対するアンケート調査結果、
ヒヤリング調査結果より)

【学校の図書館】

学校図書館における取組では、環境整備や人的整備による効果が多くあげられていた。

例えば、図書館担当者が館内の飾り付けや掲示物の工夫や、書架やテーブル配置を工夫するなどの環境整備を行うことにより、子どもたちが図書館に入りやすく、興味を持ちやすくなる効果が見受けられた。

また、人的な面では、南丹市の学校図書館指導員や大子町の学校図書館補助職員のように、自治体が雇用した臨時職員の派遣によって、図書室の整備、新刊受け入れ、配架、地域の図書館や自治体との連絡・調整など、学校図書館の円滑な運営に効果をあげている場合が見受けられた。

なお、学校図書館が、子どもたちが集うサロンの役割や保健室的な役割（教室に入りにくい子どもが図書館で過ごす）など、コミュニケーションの場としても機能している場合があった。

これらのことから、学校における子どもの読書活動の推進には、蔵書の充実や選書と並んで、人員の配置など人的な面も含めた図書館の環境整備が有効であることが示唆される。

(文部科学省による委託事業の受託自治体における取組参加者に対するアンケート調査結果、
ヒヤリング調査結果より)

②地域の取組

【読書ボランティア】

読書ボランティア実態調査及び読書ボランティア団体に対するヒヤリング調査の結果によると、子どもの読書活動の推進が活発化する機運を受けて、読書ボランティアの活動の場は小学校をはじめ、中学校、幼稚園・保育園、図書館・公民館、児童館・学童保育施設、保健センター、福祉施設、書店などに広がっていることがわかった。

また、ボランティア活動に携わる人は、子どもから喜ばれる点に手ごたえを感じている人が多いことがうかがえた。

子どもを対象としたアンケート調査の結果によると、「読書ボランティアなどによる読み聞かせやブックトーク」が好きな子どもの方が、本に対する興味・関心や能力の変容が高い結果であったことから、読書ボランティア活動が子どもの読書活動を推進する上で果たす役割が大きいことが見受けられた。

自治体に対するヒヤリング調査の結果によると、読書ボランティアに対する学校の先生の理解が進み、ボランティアが受け入れられるようになった点や、ボランティアによる読み聞かせの時間を子どもが楽しみにしている点などの意見が学校の先生、ボランティアの双方からあげられるなど、学校における読書ボランティアの活動が子どもの読書活動に効果が大きいことがうかがえた。

また、「学校以外の地域の図書館、児童館や公民館、書店に読み聞かせをしてくれる人がいる」と回答した子どもで、読書に対する態度の変容が高い結果であったことから、学校以外における読書ボランティアによる活動も重要であると考えられる。

(読書ボランティア実態調査、読書ボランティア団体からのヒヤリング調査結果等より)

【地域の図書館】

子どもに対するアンケート調査の結果（小学校5年生、中学校2年生）によると、地域の図書館の「好きなところ」として、「読みたい本がある」点や「知りたい情報がある」点をあげた人では、読書に対する興味・関心や能力の変容に効果が見受けられた。

このことから、図書館における蔵書や本の情報の充実は子どもの読書活動を推進する上で果たす役割が大きいことが見受けられた。

また、それと並んで、「お話し会などの行事がある」点や「本について教えてくれる人がいる」点を評価する子ども（特に小学校5年生）は、読書に対する興味・関心や能力の変容に効果が見受けられた。

このことから、蔵書の充実を図るだけでなく、行事を開催したり本について教えてくれたりする人が居るなど、子どもと緊密なコミュニケーションや人との交流が、小学生の読書活動に影響を与えていることが見受けられた。

保護者に対するアンケート調査の結果によると、地域の図書館が魅力的な理由として、蔵書が多い点のほか、読み聞かせなどいろいろな行事がある点をあげている意見が多くあり、図書館を評価する要因の1つとなっていた。

また、図書館職員に対するヒヤリング調査の結果によると、来館者を待っているだけの図書館ではなく、職員が積極的に来館者等の地域の人に働きかけることの重要性や、働きかけたことによる効果があげられていた。

(文部科学省による委託事業の受託自治体における取組参加者に対する調査、ヒヤリング調査結果等より)

③自治体

自治体の担当者に対するヒヤリング調査の結果によると、地域ぐるみの取組を長期的な視点で継続的に実施することが、読書活動を推進する上で重要であるという意見が多かった。

また、自治体の担当者に対するアンケート調査の結果によると、町ぐるみで取り組んだことによって、読書に対する意識の高まりや理解の深まりが見られた点を、効果としてあげる自治体が多くあった。

特に、中学校の場合では、保護者や学校の先生が自治体の取組に対して高く評価する学校ほど、子どもの態度の変容の効果が高い結果になっていた。

なお、学校の先生に対するアンケート調査の結果によると、自治体が積極的に行事等を実施している点や、学校における取組に自治体から支援がある点を評価する意見があげられていた。

このことから、自治体による地域や学校を巻き込んだ取組の有効性がうかがえた。

(文部科学省による委託事業の受託自治体における活動状況調査、文部科学省による委託事業の受託自治体における取組参加者に対するアンケート調査、ヒヤリング調査結果より)

④文部科学省の施策

自治体の担当者に対するアンケート調査の結果によると、子どもの本に対する興味・関心の高まり、読書ボランティアのネットワークの構築などの点で、文部科学省の委託事業が効果をあげていたことがわかった。

また、自治体の担当者に対するヒヤリング調査の結果によると、受託事業の実施が町ぐるみの取組の起爆剤となり、その後の継続につながっている等の意見があげられていた。

(例)

「読む・調べる」習慣の確立に向けた実践研究事業

学校図書館の学習情報センターとしての機能が高まった自治体の例など、学校図書館の活用が進んだ点が効果としてあげられた。

オーサー・ビジット事業

事業を実施した自治体はいずれも、作家本人と直に接することによって、子どもの本に対する興味・関心が高まるきっかけとなった点を効果としてあげている。ヒヤリング調査においても、その分野の一流の人と接することは子どもの成長に大きな影響を与えるものであり、効果の大きい事業であると評価されていた。

読書ボランティアリーダー育成事業

事業を実施した自治体で、読書ボランティアと行政、学校、地域、図書館など

の連携を深める点や、読書ボランティア自身の意識を高める点での効果があげられた。

（文部科学省による委託事業の受託自治体における活動状況調査、ヒヤリング調査結果より）

⑤家庭の読書環境

子どもに対するアンケート調査の結果によると、小学校入学前に家庭における読み聞かせの経験がある子どもの方が、学校の取組によって本を読むようになった割合が高くなっており、特に、その傾向は低学年の方が高い結果となっていた。

このことから、家庭における読み聞かせや保護者からの働きかけの有無といった読書環境が、低学年ほど子どもの読書に対する態度の変容に影響を与えることがうかがえた。

なお、子どもの読書活動の推進で、家庭を巻き込んだ取組として、茨城県大子町では「家読（うちどく）」を実施していた。「家読」とは、家族みんなで好きな本を読み、読んだ本について家族で話し合う習慣を身に付ける取組であり、家庭における読書習慣をはぐくむとともに、親子のコミュニケーションを深める効果をあげている例があった。

このように、自治体や学校の具体的な働きかけによって、家庭を巻き込んだ読書活動の推進が行われている。

（文部科学省による受託自治体における取組参加者に対する調査結果より）

(2)問題・課題

①学校の取組やボランティア活動を活かす体系的な指針の必要性について

各種調査の結果によると、子どもの読書活動を推進するためには、自治体の担当者、地域の図書館職員、学校の先生や図書館の担当者、読書ボランティアなど様々な立場の人が取組に関わり、効果をあげていることが見受けられた。

こうした個々の取組が子どもに対する読書活動の中で、どのような位置づけにあるのか、どの段階にあり、目指すべき方向は何か、といった体系だった指針が求められていることが明らかになった。

学校の取組やボランティア活動が、十分に効果を発揮するためには、読書活動全体を見通した指針の確立が求められている。

（読書ボランティア実態調査、読書ボランティア団体からのヒヤリング調査結果、文部科学省による推進事業受託自治体における取組参加者に対する調査等より）

②読書ボランティアと受け入れ先や自治体との連携について

・受け入れ先の担当者とのコミュニケーション不足

読書ボランティアや、学校の先生に対するヒヤリング調査の結果によると、受け入れ先である学校の先生が多忙であるために読書活動を行う上で十分な打ち合わせが取れない場合があるなどの課題を、読書ボランティア及び学校の先生双方からあげられていた。

この課題を解決するには、全ての学校図書館に専任の司書が配置されることが望ましいことではあるが、すぐに実現することは容易ではない。

こうした状況の打開策として、いくつかの調査対象の自治体では、「自治体から読書指導や図書館の環境整備のために人材を派遣する」制度を実施しているところがあったが、その際は、派遣される人材の資質について注意を払う必要があり、人材育成のための研修制度や、司書資格保有者の活用などが重要であるといった意見があった。

・ボランティアの特性を活かした、活動体制の充実

読書ボランティア実態調査や「子ども読書の情報館」アンケート調査の結果によると、選書の方法や著作権の取扱い及び読み聞かせの技術などについて、課題としてあげている人が多かった。

また、専門的・総合的な見地から読書ボランティアをコーディネートしたり、アドバイスや方向性を示したりする人材や体制が不足している状況がうかがえた。

こうした状況から、読書ボランティア本人や、その指導者の育成体制の確立が今後の課題であることがうかがえた。

(読書ボランティア実態調査、読書ボランティア団体からのヒヤリング調査結果等より)

③家庭による読書に対する意識の差異に伴う対応の難しさについて

子どもや保護者に対するアンケート調査及び自治体の担当者に対するヒヤリング調査の結果によると、家庭における子どもの読書に対する意識に差異や隔たりが見受けられるために、読書活動を推進する取組の効果を十分に享受できない子どもがいることが、課題として浮き彫りにされた。

また、読書活動に対する子どもの態度の変容は、学校における取組だけでなく、家庭環境（保護者による読み聞かせの有無や、保護者の読書に対する態度など）の影響を受けていることが調査の結果からうかがえ、家庭を巻き込んだ取組の推進が今後の課題であることがうかがえた。

(文部科学省による委託事業の受託自治体における取組参加者に対する調査結果、ヒヤリング調査結果等より)

(3) 読書活動の推進に関する取組の情報提供について

① 文部科学省の取組の認知度と本に関する情報の入手先の現状

■ 文部科学省の取組の認知度

文部科学省の取組に関する認知度は、読書ボランティアに対するアンケート調査、「子ども読書の情報館」アンケート調査、受託自治体における取組参加者に対する調査の結果によると、いずれも5～6割程度であった。

個別の施策では、「子どもゆめ基金」事業や「全国子ども読書推進キャンペーン」の認知度が50%を超えており、他の施策に比べて高くなっていた。

■ 本に関する主な情報の入手先

子どもの場合の主な情報の入手先は、「書店」や「友達・知人」が他の情報の入手先に比べて多かった。特に小学生の場合は、「学校の図書館」や「家族」をあげている回答が多かった。

また、インターネットなどで容易に情報を入手できるようになった今日においても、書店からの情報や身近な人を介して情報を入手している回答が多かったことから、身近な地域の環境が読書活動に与える影響の重要性が再認識される結果となった。

(読書ボランティア実態調査、文部科学省による受託自治体における取組参加者に対する調査結果等より)

② 問題・課題

■ 情報提供の必要性

自治体の担当者や読書ボランティア団体に対するヒヤリング調査の結果によると、「文部科学省が子どもの読書活動に関してどんな取組を行っているのか知らないため、情報が欲しい」、「子どもの読書活動に関する研修や講習会に参加する機会が少ないため、地方で活動しているボランティアにも、情報が届くようにしてほしい」、「インターネット等で自ら調べないと、目に触れる機会が少ない」など、文部科学省の施策について、情報提供を求める意見があげられていた。

このことから、情報提供の内容、手段、媒体など、さらなる方策を検討する必要があることがうかがえた。

(読書ボランティア実態調査、文部科学省による受託自治体における取組参加者に対する調査結果、「子ども読書の情報館」についての調査結果より)

Ⅲ. まとめ

第2章 今後の取組への提案

■ 読書活動の推進施策

各種アンケート調査の結果では、学校や自治体における取組に対する評価が高いほど、取組によって本を「以前に比べて読むようになった」、「本を読むことが楽しくなった」、「本を読んで感動することができた」「新しい言葉や知識が身についた」など、読書に対する態度の変容の効果が高い結果であった。

また、ヒヤリング調査の結果では、文部科学省からの受託事業に取り組んだことで、町ぐるみの読書活動の推進につながる効果があった点などの意見があげられていた。

このことから、自治体、地域、学校における継続的な取組が、読書活動を推進する上で今後も重要であると考えられる。

自治体における取組と役割

各種調査の結果では、地域ぐるみで積極的に読書活動に取り組む自治体において、読書活動の推進に成果が見受けられた。

このことから、自治体が、学校・地域の図書館・読書ボランティアなどの読書活動を支援するとともに、家庭に対する働きかけを行うなど、子どもの読書活動を推進していくために、中心となって地域を牽引する役割を果たしていることがうかがえる。

そのため、自治体においては、学校・地域の図書館・読書ボランティア・家庭に対する働きかけや読書指導を支援する体制を整え、地道に継続していくことが重要である。

例えば、学校に対しては、図書館の運営や読書指導を補助する人材を、自治体から継続的に派遣する制度など、先行事例を参考にすることを提案したい。

また、学校・地域・家庭など個々の取組の連携を図ることで、より有効な読書活動を推進していくことが、自治体の役割として今後さらに重要であると考えられる。

学校における取組と役割

学校は、様々な学習や読書活動の取組によって、子どもが読書に親しむことができるようにする役割を果たしている。

各種調査の結果では、「読書の時間」、「読み聞かせ」、「ブックトーク」など、学校における取組は、子どもの読書に対する興味・関心の高まりや、態度の変容の効果があることが見受けられた。

例えば、「読書の時間」は、いずれの学年においても取組の評価と態度の変容に関係が見受けられ、特に小学校低学年においては、「読書の時間」が好きな子どもほど、本を読むようになった割合も高い結果であったことから、より有効な取組であることが推察される。

また、「読み聞かせやブックトーク」は、低学年を中心に評価が高い結果であったが、ヒヤリングの結果では、中学生や高校生における取組においても、国語だけではなく幅広い分野に対する興味・関心が高められた例があげられていた。

このことから、子どもの発達段階に応じた「読み聞かせやブックトーク」が有効な取組であることが推察される。

このように、子どもの発達段階に応じて、最適な取組を選択しながら、継続的に実施することが重要である。

地域の図書館における取組と役割

地域の図書館は、子どもが学校以外で身近に読書に親しむことができる場としての役割を果たしており、子どもや保護者に対するアンケート調査の結果によると、利用者が地域の図書館を評価するポイントとして、「読書に関する様々な行事」や「職員による本についての情報を得られること」があげられていた。

こうした図書館のあり方は、個々の図書館職員の工夫によって支えられているとともに、学校の先生や読書ボランティアなどと連携することも大きく影響している。

また、図書館と地域の読書活動を推進している関係団体（者）が、連携を図れる体制を構築することが、今後の取組として重要である。

読書ボランティアの取組と役割

読書ボランティアの活動の場所は、学校をはじめ地域の図書館、児童館及び公民館など、様々な場所に広がっており、活動の内容は、本の読み聞かせだけでなく、学校や地域の図書館の運営や読書指導の補助、地域の読書活動のイベント等に携わることなど、多岐にわたっている。

こうした状況から、読書ボランティアが力を発揮するためには、読書ボランティア本人が読書活動に関する知識を継続的に取得し、自己研鑽に務めることが大切であるとともに、行政や読書活動を推進する関係団体などによる継続的な読書指導や読み聞かせの手法などの研修等の機会が求められている。

■ 読書活動の推進に関する設計図の構築

各種調査の結果では、学校・地域の図書館・読書ボランティアなどがそれぞれの立場で工夫を凝らし、読書活動の推進に取り組んでいることが見受けられた。

今後は、より効果的に読書活動を推進するために、個々の取組の全体像を把握するとともに、子どもの発達段階に応じた適切な読書指導や、子どもと本の関わり方を示す体系的な指針の確立が必要である。

例えば、子どもに対しては、子どもの発達段階に応じて、乳幼児期では「ブックスタート」、保育所・保育園では「読み聞かせ」、小中学校では「読書の時間」や学年に応じた読書指導を実施する。

また、家庭や地域の大人に対しては、読書活動に関する啓発を行うとともに、地域ぐるみで力をあわせて読書活動を推進することや、子どもの発達段階やそれぞれの立場に応じた具体的な取組の提案などが考えられる。

特に、小学校低学年の子どもは、家庭における読み聞かせの有無などの家庭環境や学校の取組から受ける影響が大きく、小学校高学年、中学生となるにつれて、自治体の読書活動の取組に対する評価が高くなっており、態度の変容の効果が高い結果となっていた。

このことから、自治体、学校、地域の連携により、子どもの発達段階に応じた取組を体系的に推進することが大切であることが見受けられた。

また、自治体、学校、地域の図書館、読書ボランティア、家庭などそれぞれが子どもの読書活動において果たす役割や位置づけを明示することも必要であることがうかがえる。

そのため、各自治体が地域の実情に応じて、読書活動を推進するための基本的な設計図を、国レベルで構築することが望まれる。

■ 専門的な見地から読書活動を支える人材の育成

読書ボランティアの活動をより有効な取組にしていくためには、読書ボランティアが読書活動に関する知識を継続的に取得し、自己研鑽に務めることができるよう専門的な立場からの読書ボランティアに対する指導や、学校や幼稚園・保育園などと読書ボランティアをコーディネートする役割を果たす人材の育成が必要である。

そのために、司書資格保有者の活用や、幅広い年代を対象とした研修の充実が必要であることがうかがえる。

■ 情報提供の内容や、手段に関する工夫

各種調査の結果では、文部科学省の読書活動の施策について、認知度は5～6割であった。

また、ヒヤリング調査及びアンケート調査の結果では、文部科学省の施策をはじめ、子どもの読書活動に携わる人を対象とした研修や講習の機会の提供など、子どもの読書活動の推進に関して、情報提供を求めている意見があげられており、より多くの人に対して読書活動の推進に関して周知するための方策を検討することが求められている。

例えば、インターネットによる情報提供に加えて、今回の調査結果にある情報の入手先として多くあげられた「書店」や、「家族や友人・知人」といった、身近な場所や人を介した情報提供の在り方について検討することが求められている。

子ども読書活動推進に関する評価・分析事業 報告書
平成 21 年度

【受託機関】

財団法人 文字・活字文化推進機構

〒 101-0051 東京都千代田区神田神保町 3 - 1 2 - 3

TEL 03-3511-7305

【連絡先】

文部科学省スポーツ・青少年局参事官（青少年健全育成担当）付

〒 101-8959

TEL 03-5253-4111